

巴伊國名所圖會

後編

六之  
日高郡



紀伊名所圖會後編卷之六

目錄

- 日高川子圖
- 岩内王子社
- 山田莊
- 塩屋浦并圖
- 權現磯
- 上野莊
- 山臥塚并山田圖
- 阿古根の浦
- 佛井戸并圖
- 印南驛并圖
- 土橋
- 日高潮
- 春日社
- 紀道明神社
- 塩屋王子祠
- 輕島
- 灘
- 壁川橋
- 古錢
- 清姫腰掛石
- 印定寺
- 御所平
- 岩内莊
- 熊野權現社
- 蟹田山
- 王子川
- 産物沖牡蠣
- 後戸
- 壁崎
- 上野
- 印南莊
- 正八幡宮
- 富王子祠
- 石淵郷
- 聖徳王子社并圖
- 熊野川
- 富島
- 武塔天神社并圖
- 清姫草履塚
- 野島
- 上野王子祠
- 津井王子祠
- 印南川
- 大歳明神社



切目莊 并全圖古  
 大塔宮社 并御  
 切尾湊 并御  
 百王子塚 并御  
 川又觀音社 并圖  
 中山 并圖  
 結松 并圖  
 岩代原 并圖  
 岩代井 并圖  
 南部郷 并圖  
 南部峠 并圖  
 名石 并圖  
 南部川 并圖  
 切目五躰王子社 并全圖古  
 御所屋敷 并全圖古  
 切目川 并全圖古  
 眞妻明神社 并全圖古  
 岩代王子祠 并全圖古  
 中山王子祠 并全圖古  
 岩代山 并全圖古  
 岩代王子祠 并全圖古  
 沖見茶屋 并全圖古  
 片倉峠 并全圖古  
 千里濱 并全圖古  
 目津崎 并全圖古  
 南部驛 并全圖古  
 熊野懷紙 并全圖古  
 玉那木淵 并全圖古  
 切目畝 并全圖古  
 樺川 并全圖古  
 岩代莊 并全圖古  
 岩代尾上 并全圖古  
 岩代濱 并全圖古  
 八幡宮 并全圖古  
 餅 并全圖古  
 千里王子祠 并全圖古  
 千尋濱 并全圖古  
 勝專寺 并全圖古  
 那木 并全圖古  
 切目宿 并全圖古  
 新八幡宮 并全圖古  
 光明寺 并全圖古  
 盤代岡 并全圖古  
 岩代野 并全圖古  
 岩代岸 并全圖古  
 南部莊 并全圖古  
 引木坂 并全圖古  
 産物珊瑚砂 并全圖古  
 御所原 并全圖古  
 三鍋王子祠 并全圖古

安養寺 并古  
 超立寺 并古  
 瓜溪 并古  
 阿和惣大明神 并古  
 鹿島 并古  
 三名部浦 并古  
 一宮権現社 并古  
 産物盆石 并古  
 天寶明神社 并古  
 産物海馬 并古  
 異事 并古  
 祇園御靈宮 并古  
 南部川郷 并古  
 笹峠 并古  
 鹿嶋明神社 并古  
 道祖神の事 并古  
 野邊氏城跡 并古  
 轟の龍 并古  
 埴田梅林 并古

○<sup>ひがしから</sup>日高川 慈覚宗匠に日高名を傳ふるに小匠を傳枝々天田村へ渡りねりて天田渡

とつゝある所々山地を大木小界及生田日高二部の場の中より登りて  
法座と稱す小陸を傳ふてあふ入る大右と名け流の湊合するをれ橋て板すへり  
此海口より大木と傳ふ所すは陸地を廿里許りてつゝも河を八里とてすを母

草根集 正徹

□ 乃れ此の川を流るる氷と碎く紀河の縁人 同

道の寺縁起云  
日高川とて川をわたりて大木出ては便船して渡りぬふ  
か渡り小舟を揺る舟者れ只今遊て来りて一室ては船小  
舟らんといふらんらん完望するの勢を舟に打つひけり  
は傳ひつゝさ遊けり所むのどく来り渡せとやけりとも  
舟渡りやてさ其時衣被揺揺り大毒地と成ては川と  
渡り小舟を舟渡をばちけりてして思内小舟をけりて日  
記ありて惟小又えりて

日高潮 我れ日高考院小舟の湖字をうて一陣時を云て新波湖又万を集りて板の湖



居名之湖是利也他湖の字塔ミナトと洲あり万葉集注載小引る河波風之記の中  
湖具湖も亦同例あり又万葉集小潮見明且石之潮潮葦又潮核延昔皆湖を混り  
て潮子作又字鏡集小潮をミナツと訓る  
をわし小中世後ア用るしるらん  
靈異記云

紀伊國日守郡の瀬子紀勢侶船長といふ人ありけり烟波  
結んで魚を捕るるに波業と須同小安帝那今此をうび吉備郡  
此人紀伊馬貴と海部郡淡中郡の人中尾連紀父麻呂と二  
人百侶船長小傭賃とて年便と交くる小い人吾我のこ  
ろちれく二人を若行馳使志て烟を引くせ魚捕らせけ  
り然る小安龜去年六月廿日天卒に風さちち中入たち  
隙志とつとて湊く大なる海川と下ると輕木流出しといひ人  
これ二人を若行志と流る本をぬらぬれれば二人と  
いふ事波ありて掬子編とともれちちまアて誰んと次  
るにち勢さげとて志て魚獲とて後とけ誰と湊  
をささく海小入とて各一本小とて湊流とて

二人を如何にもせんよとて唯南無を奉り英雅解脱せ  
しめり尺迦年尼佛と稱へて夫叫びて息さるる  
あや何ぞけむ祖父麻呂の六日と稱く淡路小南西田町燈  
浦此燈焼く人の怪小僅くよとて泊り馬貴を後と日小  
同ふしとて泊りてからとて夜をたふとて其御人等こ  
も波えとて由をいひしもの状を知らずて懸出さひつ  
尚團司も申されば團司も忠みと稱れ給ひてるるあ  
りしに耐祖父麻呂歎しつとてやう殺生とてし人可  
成ひて苦哉交るる事とて我日言小意らば彼又馳使  
志と殺生の業を止ざらんといふ苗とてし其小の團  
分寺此僧小成ひつとて馬貴を二月を絶くといふ御子海  
東アといふ妻子これをえとて面交さるる事とて  
しとていふやう海小入て溺死せしときとてし

日と終て女こゝろに食いそをまけ報恩流きん小早こゝろつこ思ひの  
 けとていそり歌うたをせまふと多おほなる記し鬼おにをこれとていそり  
 女おんな具ぐ小こ志しめこれとて臨まべがれが妻子うぢお忠ちかお喜きび  
 くれとていそりこととていそり馬うま喜き愛あいひしそり  
 世よを歌うたひ山やま小こ入いつて法はを修しゆしこれとて人ひとづく者  
 奇あましとせとていそり海うみ中な小こ子こてて難がた多おほしそりも多おほし金かね  
 し歌うたを存ぞんずらとて毫ち小こ尺せき迦か如に来きの威い徳とくめしとて漂たふ流りう  
 此人このひとの源もと伝つたなり況げん報ほうとて是こゝろのやし況げんや後ご生せいの報ほうとてや

**岩内荘**

日字川の南界小川  
 多々田ヶ村をまじ

**石淵郷**

和名柳小出今廢して傳へる日字川の  
 南界小里内村りて定入ちの地なり

**岩内王子祠**

岩内村りて今也久志渡王子といひ地河流記載し  
 岩内王子社地蔵没して及妻小社をこり建し

柳幸記  
 十日 略 渡河参まいハハ千王子

**春日社**

旧村小川、境内産くしとて大井田も  
 春日社

**熊野權現社**

熊野村りて今もあれ十一月  
 有日一村の産大井田

當社々た然た燈てん大神おほを祀まつりて境内このうちへと廣ひろく社やしろ殿どの也なり小こ分ぶん  
 子こ古こ八はち十二じふに社やしろ何なんとと後のち妻つま也なり社やしろ小こ合あ祀まつり

此の社は社魁子林也も多く春日小川に社與年妻歌田辺小後傳せしとの  
 以しつて今も春日とて今も川上入里村大山権現り後傳せしやつみ 當社

弟あに小こ川がわ上のうへ庄のむらの大山おほ権けん現げん々々危あや瘡しやう守まも護りの神かみりり

有あ徳とく大おほ君きみ藩はん小こ時とき々々とて南みな社やしろへ御ご立た願ねがひつて神かみ回ま各ご十じふ

二ふた石いしづつを寄よ附づり銘なづふ

姓年境内小川村民一寸條の白玉二顆古後  
 二面大刀七刀依是物等録出しとて春日也

祭まつり日ひ神かみ樂がく歌うた

よれと今もいそりつとて

ゆくと車くるま流ながとせし

あ勢せ才さい、かきしとて妻つま吹ふ上のうへこれとてのさむさき

東あづま山やま々々らららられ者もの小こおれ出で才さい、地ちがれつて外ほか小こ分ぶん  
 高たからちやちれれ子こさよ 莫な山やまや大おほ崎さき小ことるれい

聖徳王子社

はる子始て佛典  
を尊崇

臨ひし石

を以て母佛と

記し太子堂

を称する

はれいと多し

はる神女齋

社と稱

はるいふ



そるれいて峰なりをきと折くはくま 朝日さけ夕  
日初やく慈燈山オ、いつこもどけ小雲やうくらん  
あむれ小いづれとどけといもれとま  
あむれあむとまの慈燈小いづらう  
きくち地もゆれくオ、地もゆれく木あもるひくちや  
うれ子さよ け清あれく朝の幸小いづらうとま  
オ、あむれとまといさるる神もとまをうまは け清あれの  
あむれとまはくさくを後をまへ海と敷き後をまへ海を  
あむれとまはくさく  
紀伊國神樂坂小水神のまはく先小後く  
て海をまへくさくくとふかえんとらう小同  
あむれとまはくさくハお粉つまやオ、お粉つま  
あむれとまはくさくはくさくはくさく  
申せども西の海オ、西の海東を渚津前オ、あむれ  
あむれ子らいつくくはく丹生れ山オ、丹生れ山今あり  
あむれとまはくさくはくさくはくさくはくさくはくさく

ふるさつ、海ふるさつ大里小里もよろへん 日れ神子ハ  
日れ山うらを掛くも次オ、掛くも日れ帯級とて  
て今そちやまの次

智徳太子社 下野口村於海  
林の中あり

山田丸

岩内丸の十流小川の元木古木のほろ小田丸川  
南小移ア、名屋の一村ハ、川乃、

紀道明神社

村ハ、元木古木のほろ小田丸川、  
氏不思波の石ヤ、

蟹田山 天田十塩屋二村の古小川ハ、  
て今も小葉樹カ、

熊野川

川ハ、旧の神宮カ、

塩屋浦

浦ハ、子川を流して、

つよ、

夫木抄

哥枕名寄

沖つ風塩屋の浦をぬらふのわつもや、  
第三のみ、

今塩屋をきくも、  
似雲

塩屋王子祠

塩屋王子祠ハ、王子川の傍カ、  
塩屋王子祠ハ、王子川の傍カ、

御幸記云

十一日雨降申後聊休入夜月朧々也  
遅明出宿野 不知  
御幸 超山

参塩屋王子 此邊又勝  
地有秘 次入晝宿小食

新古今集

後二條内大臣

徳大寺左大臣

仁井田好古

鹽屋王子祠前碑

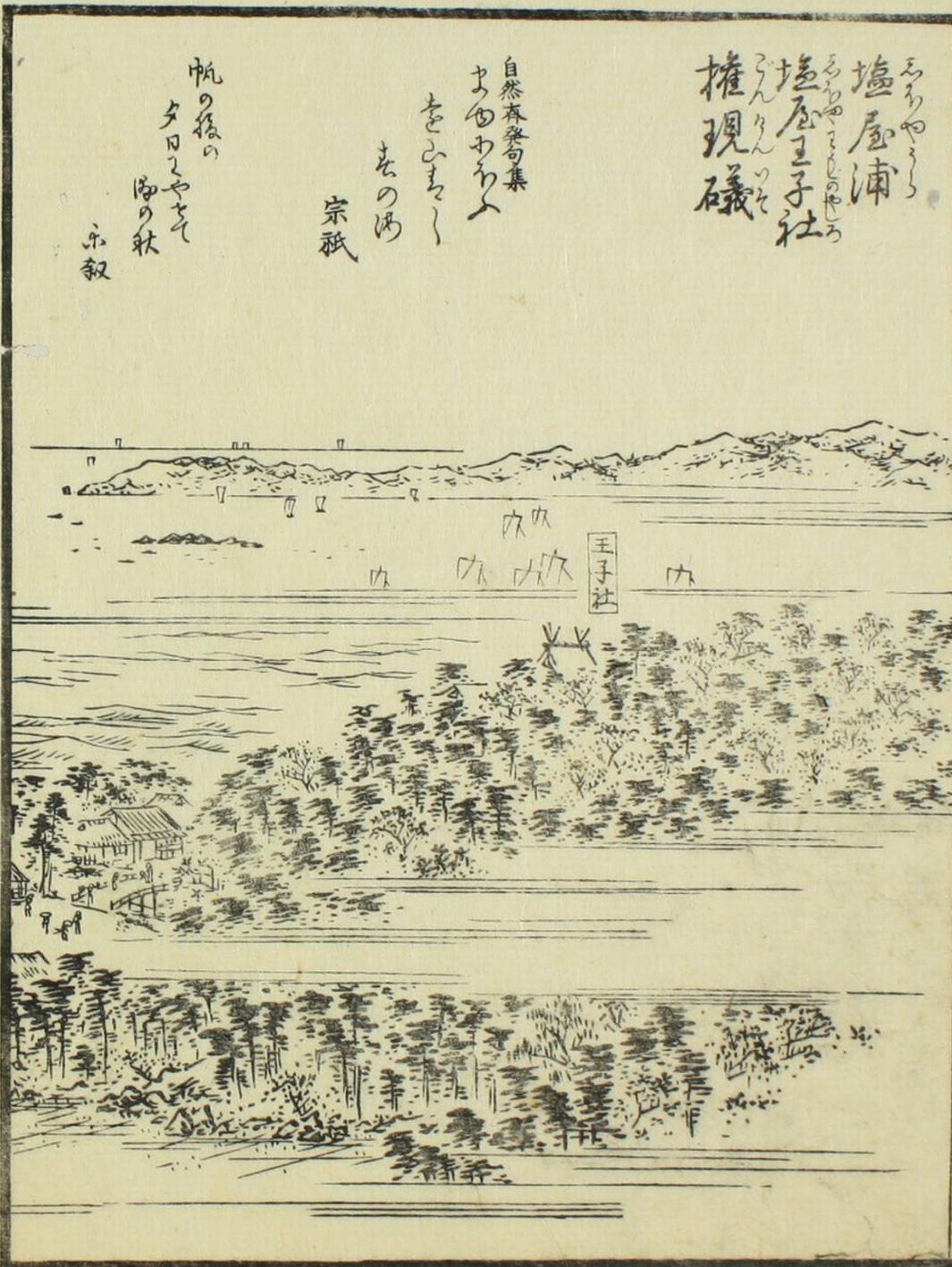
鹽屋村在日高川之海口昔時煮鹽爲業因名焉今村分南

塩屋浦  
塩屋王子社  
権現磯

自然春登舟集  
舟のわたり  
をこまわし

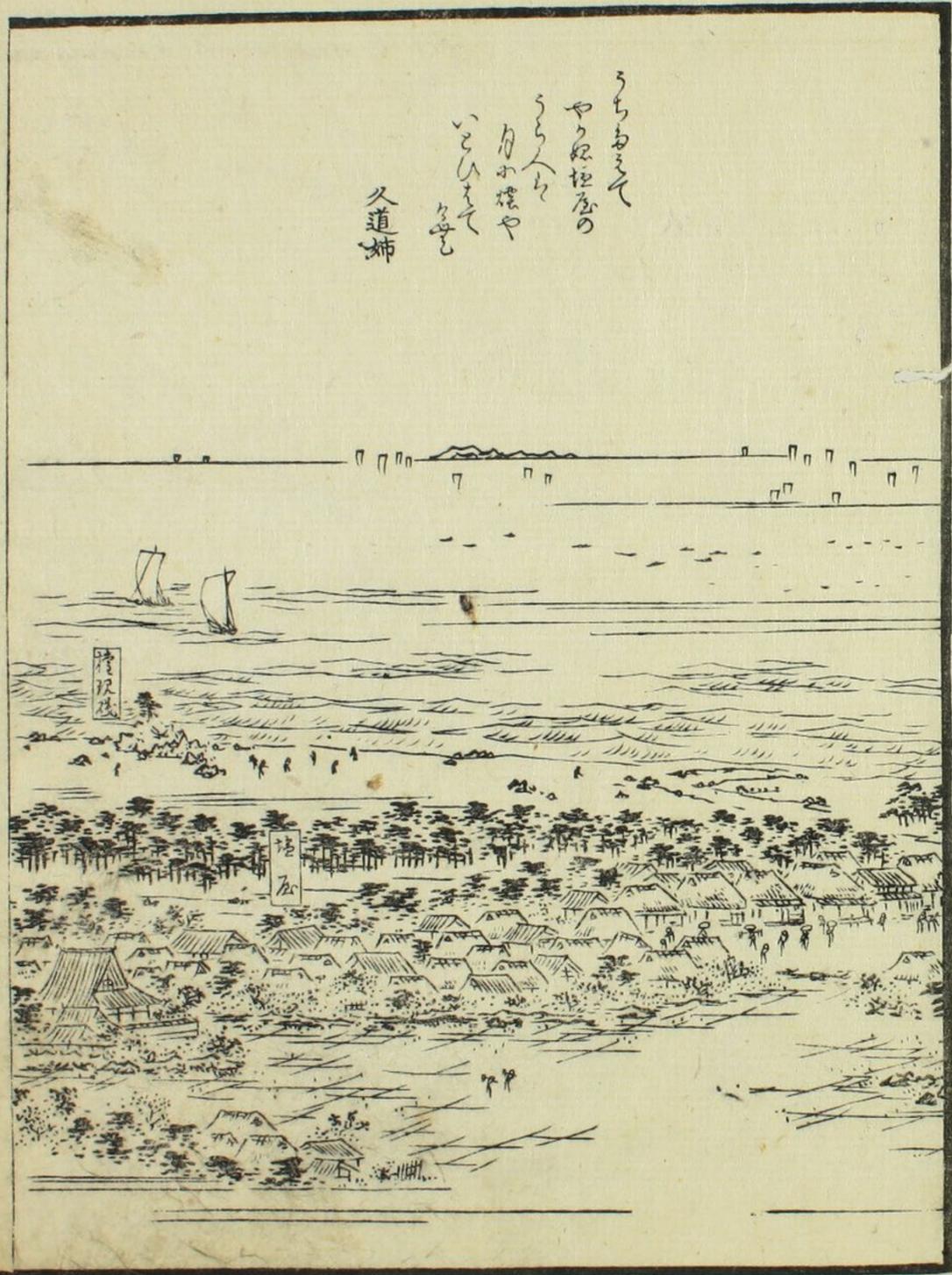
去の浜  
宗祇

帆の後の  
夕日こやせ  
海の秋  
亦叙



記回編六八

うちもきて  
やうね屋の  
うらみ  
舟の煙や  
いとひまて  
多摩  
久道姉





塩屋浦古圖 乃起孫あり



北、其在北者山岡東來西北臨日高川山岡登纔數十磴上  
平坦而樹木蒼鬱神廟在焉稱鹽屋王子一稱美人王子美  
人稱古無所見不知其所起祠在山岡可以遠眺望故 聖  
駕幸於熊野每為駐驛之處 白河法皇之幸公卿賦和歌  
於祠前建仁元年 後鳥羽帝之幸亦駐驛於此御幸記所  
謂此處亦勝地是也元弘之亂大塔王避難遁于熊野亦投  
宿于此蓋 二帝駐驛之後屋宇猶存也今也屋宇皆廢而  
草樹蒙密之中遺址獨在焉故土人呼曰御所芝其地形東  
連山巒西臨海畔淡阿諸山隱々乎蒼波杳渺之中其北則  
衆嶺回擁如半環蒼翠凌虛遷迤西走其間一大海灣若開  
鏡面此古之地形也數百年之久砂土填海川流亦移海灣  
變而沃野數里村落鱗集田疇區分閭廓遠大曉曉於雲烟  
之中翠松一黛彌漫乎海畔數里之間山容水態四時極其

濃媚花晨月夕千歲同其奇觀誠可謂一郡絕境矣嗟乎人  
之居世老幼異思貴賤分趣觀物之情固不能同登茲岡也  
二帝一王游豫踟躕之蹤依然猶存焉則豈得無意哉將追  
聖駕欣賞之跡縱其心目翬飛神怡朗誦微吟樂而忘歸邪  
將弟帝子於遺跡欽其英風氣烈流涕歔歔猶有餘慨邪又  
將達觀古今一視萬類來滄之變不入於心悲觀之跡不繫  
於懷于々焉洋々焉以遊思於物表耶樹碑勒文後之觀者  
其有所擇焉

天保四年癸巳九月

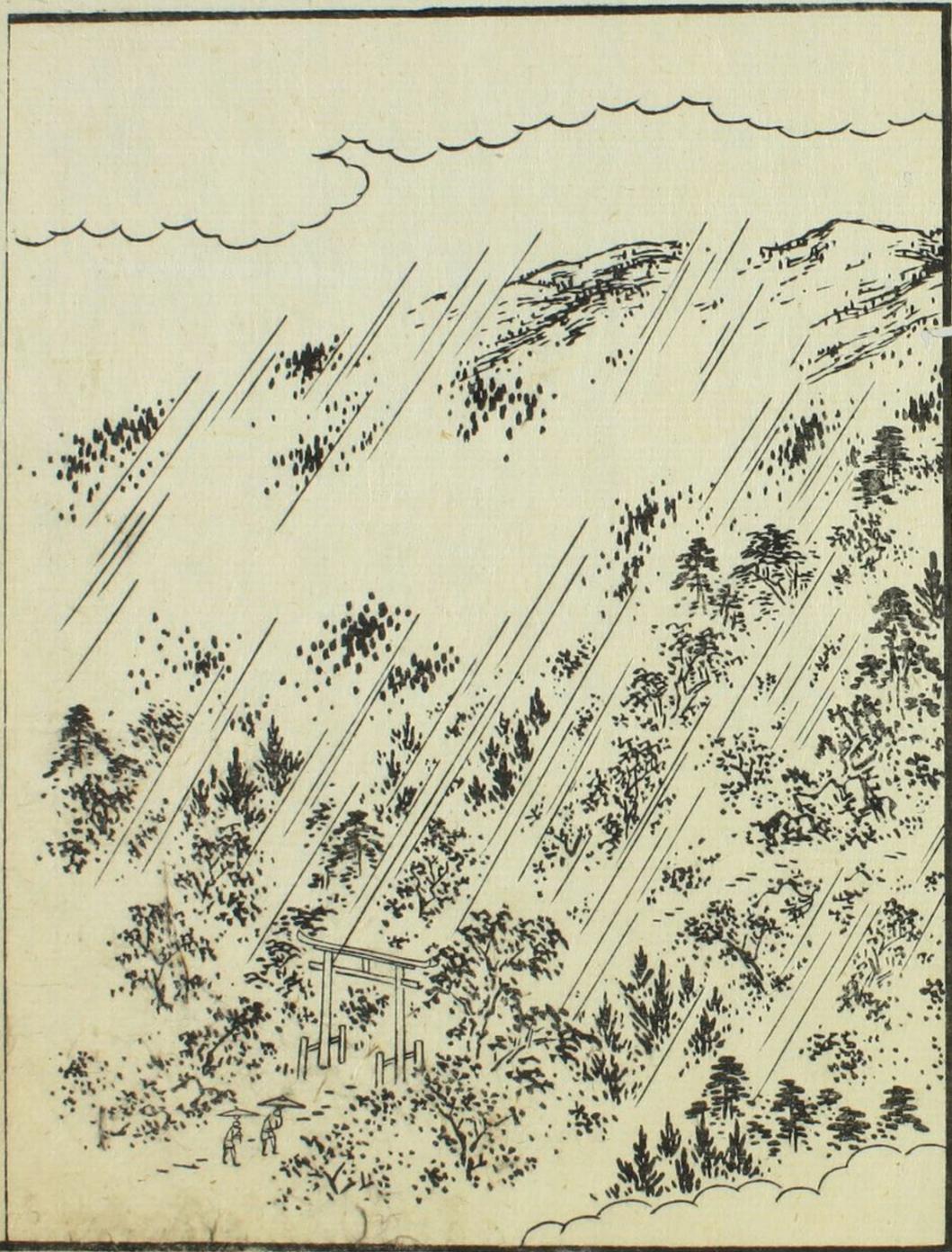
○王子川

王子祠の南小橋を架以以川源と成林川よ  
り流れ出て熱海川と合し一日王子川と名す

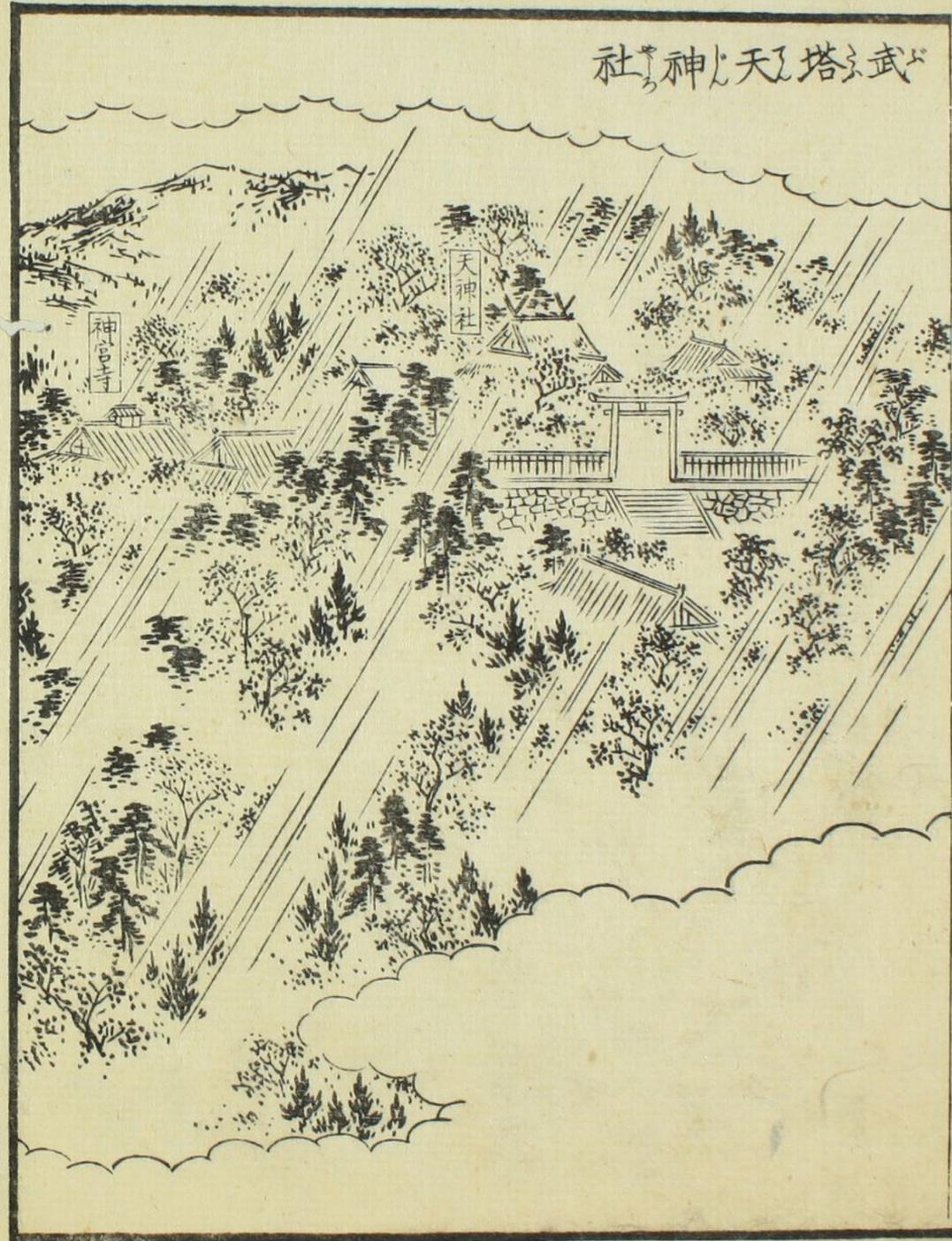
富鴻

人車記云

仁平二年四月十四日 畧 或人云今度御熊野詣每事不吉 畧  
又自御下向道御先達實賢法橋病腦富島御宿以後万死不



武塔天神社



武塔天神社

覺雖一院一所不奉送謹應留途中了

權現磯 海浜をり

此地鹿背涼よりの日の碑ふままでの連山海面小横  
日る川の海口と尾崎と紙左右小擁一經流中央小海  
くく海破の裏段小くくくくくくくくくくくくくくくく  
書とついで慈光神宮の跡とついで傳ふ描ふ小建唐の文  
とあり其田を今天田と書し一龜石の辺頂まで海口  
龜北形り子裏段あり小くくくくくくくくくくくくくくく  
富流の名々知るもれるとついで甘田龜石小横せる地小  
ぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
くく富流所宿も亦此地の名ありやアアアア

記四編六十二

輕嶋 日浦尾崎より海上二十二小あり

産物 大なる穀ふりて草木生せし

武塔天神社 日村小あり七ヶ村の産物と云ふ

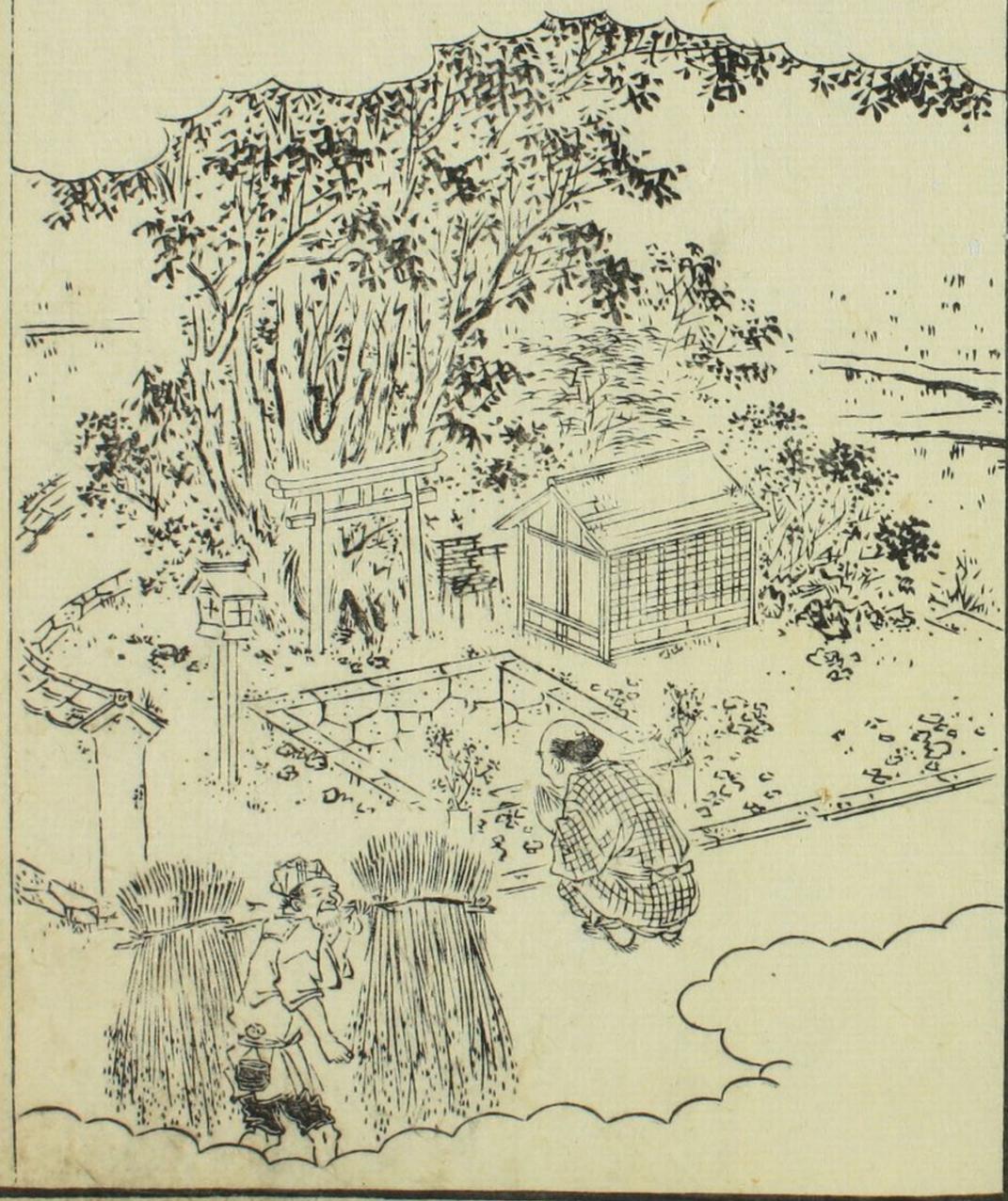
上野 山田庄の南あり

瀬 南庄尾浦より南に於て上野村井井

切目れ海を子海邊眺らしを顔して溪火れ先ふくく  
煙うれ瀬の垣屋の夕ぐれをそと家澄やれ泳どた金へら  
この瀬垣屋の海をそくくくくくくくくくくくくくくく  
津水れ若乃屋の灘と同名矣ふくくくくくくくくくく  
乃頃々垣屋の煙立のふくくくくくくくくくくくくくく



佛の舟と戸



萬葉集  
吾欲之野島波見世追底深伎阿古根能浦乃珠曾不拾

大木抄  
よきさくさくといふいふこゝろあまのついでにの浦のさくもほし

季能  
浪小流あそびたそむつらゆるかたはるくさのりりそ秋乃忌 釋阿  
十五百卷寄合

古錢

天保六年三月時修村の打物しつり者田地より古錢八百八十文と出でし唐の開  
元通寶の介二十枚の儀文に於ての世の年よりなれば建治弘安に改めし物なり  
又、又立田弘安系に細村系利根に於ては後地にて大觀通宝數百文を採出ししり  
古錢も折る古錢と稱す事ありしにいふるに、梅園日記に地神祭に弘法大  
師の作ありしとつ、地神小沙を捧ぎ奉りてを奉りてを奉りてを奉りてを奉りて  
石室石床堆古錢數處敷布四角総計九百九十九枚土人云以之辟邪最切なり崇  
川忍聞録に古推をわりし者、小櫃の儀文に用價銀九百九十貫文買地一所とい  
ふをも引く、又、桑辛雜識別集に今人造墓必用買地券以梓木為之朱書云錢  
九万九千九百九十九文買地券と云、此券と云、又、此券と云、此券と云、  
此券見於村に先さの境内の巻れられしに、古錢九百九十九文及古錢券と  
ありしを、古錢を引く、此券の儀文中、當塗主經一宇三札一品一錢千部乃文  
を、當塗主經一宇三札一品一錢と云、古錢を引く、古錢を引く、古錢を引く  
を、表す、此券と云、此券と云、此券と云、此券と云、此券と云、  
善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる、善ふる

上野

長秋記  
大治五年十二月十八日上野御宿右衛門督宿所焼亡云云

男女兩子無為還着為慶

續古今集 是也。信てゆく。... 入道前大政大臣

夫木抄 覺講法師

由良比婆... 女即卷... 寂念法師

寂念法師

清輔朝臣

○上野王子祠 同村の本場... 野徑

十一日畧次ウへ野王子

佛抄 同村古名... 近代は佛子三願とす

○清姫腰掛石 捕井村の字上の石

○印南莊 上野庄の末ノ村

○津升王子祠 御幸記

十一日畧次ツイノ王子自此邊歩指

○印南驛 小栗原... 南海集

枕上郷心語短繁風凄蘆荻入江聲愁人不向蓬窓聽

争識瀟湘夜雨情

紀別印南幸御地頭儀事不完行也守光例可致沙汰

之状如件

判 義持

應永六年十一月十八日

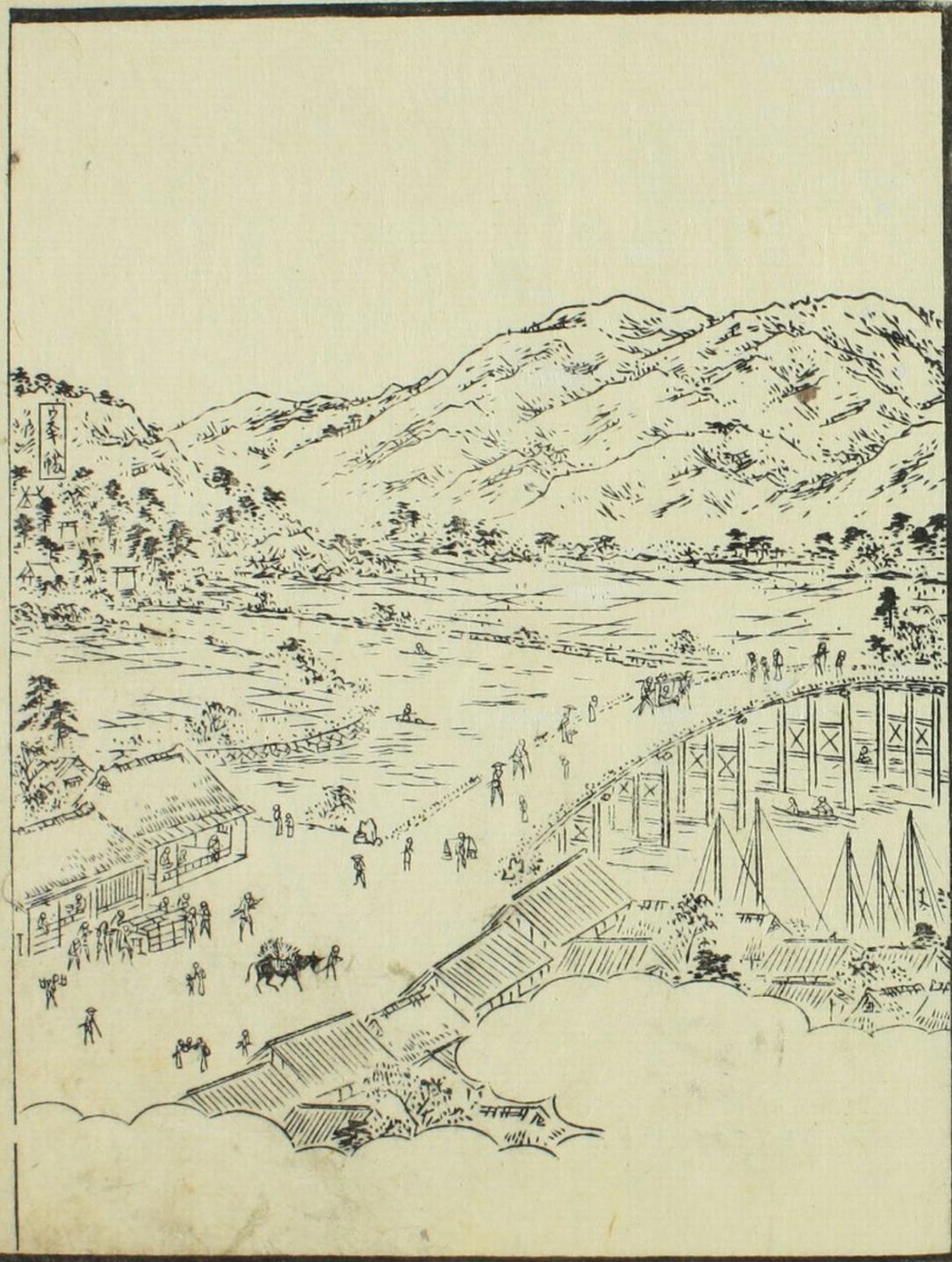
小山八郎啟

○印定寺 小栗原... 大樹あり

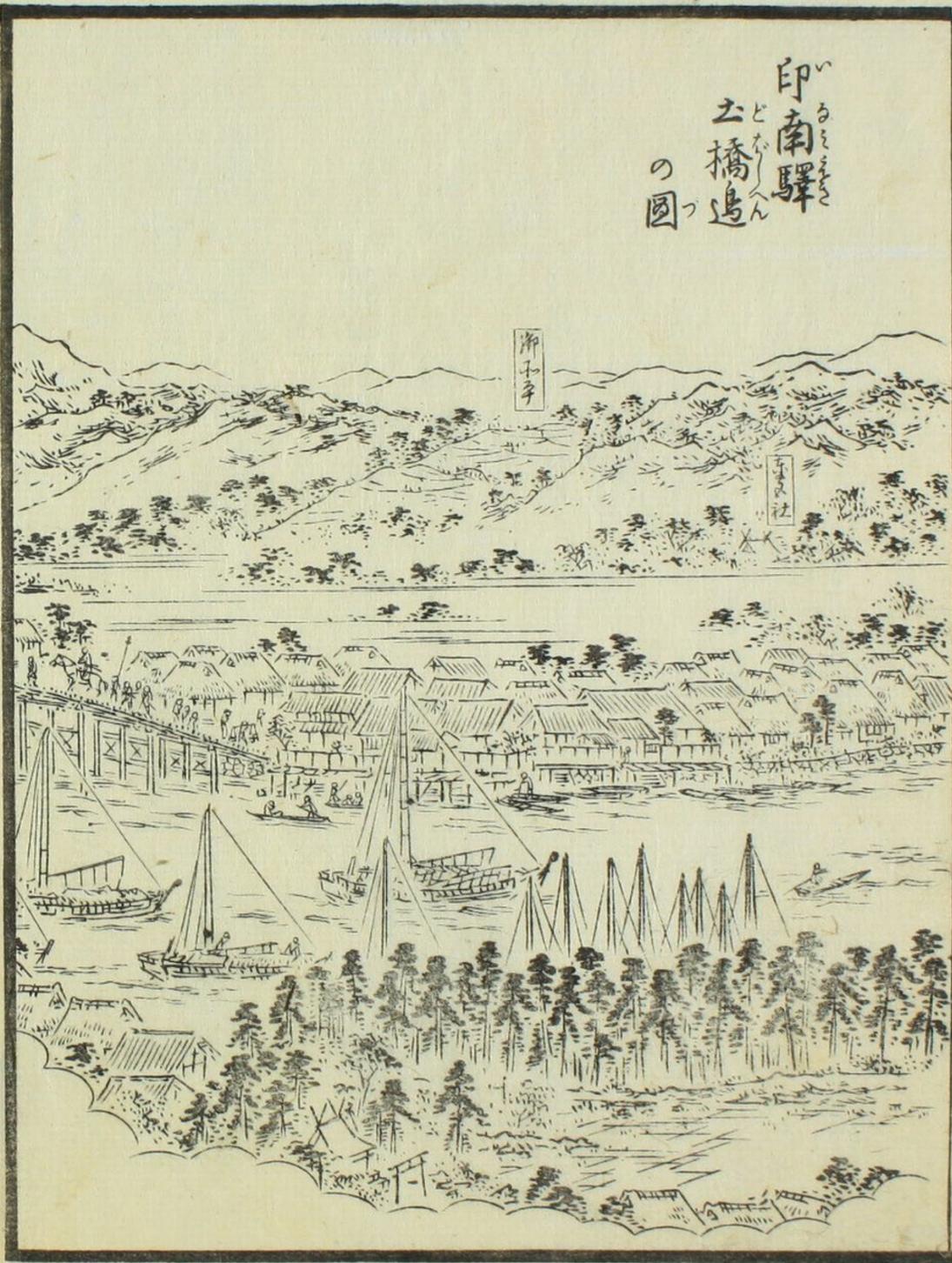
○正八幡宮 小栗原... 板村

○印南川 小栗原... 板村

○去橋 小栗原



印南驛  
の橋造  
の園



御所平

御所平 光川村小町

富王子社

富王子社 光川村小町

御幸記云

十一日 畧 参拜カール王子

大歳の神社

大歳の神社 卯南原村小町

御幸記云

切目莊

切目莊 卯南原の東南小町

切目五軒王子社

切目五軒王子社 卯南原地村の西小町

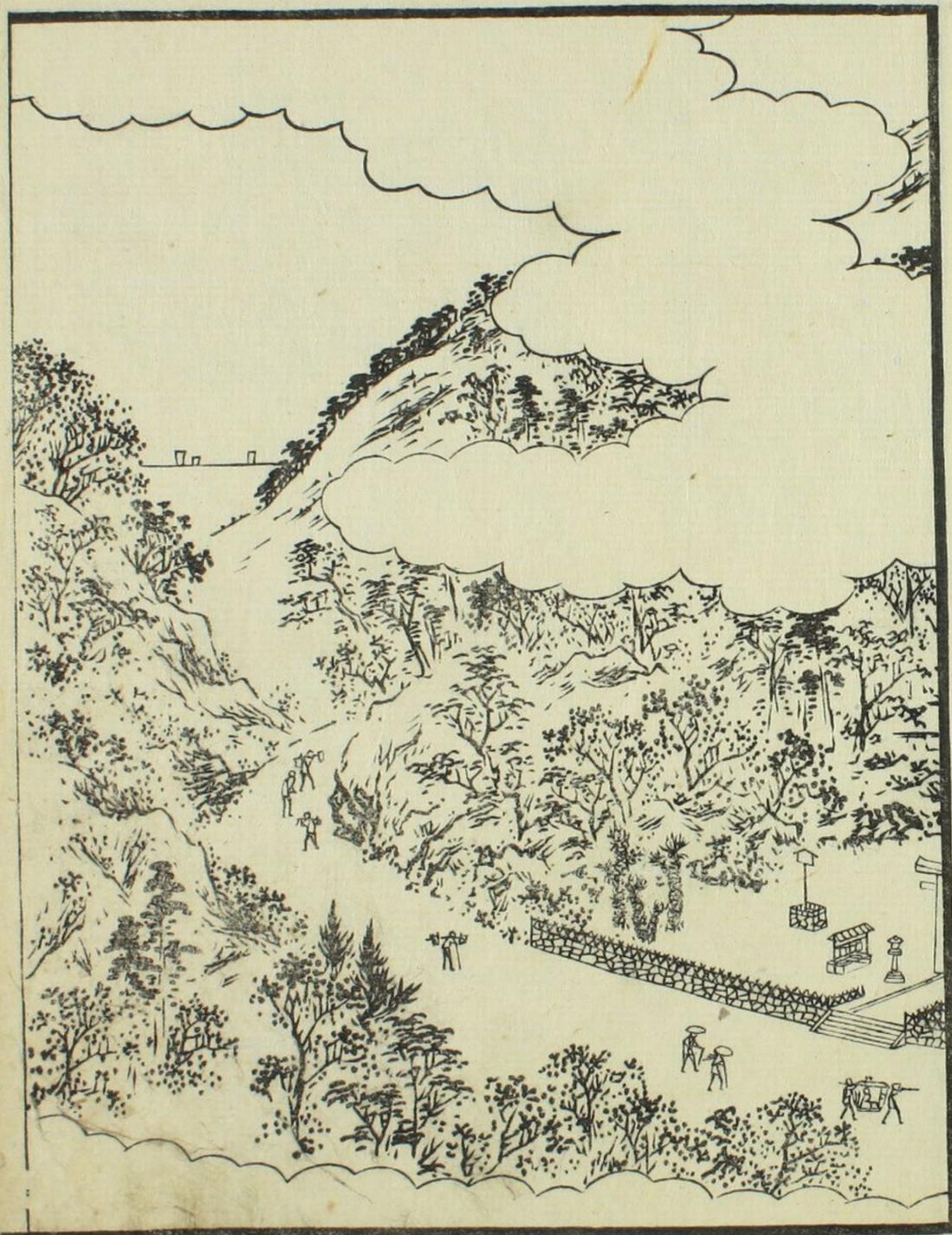
御幸記云

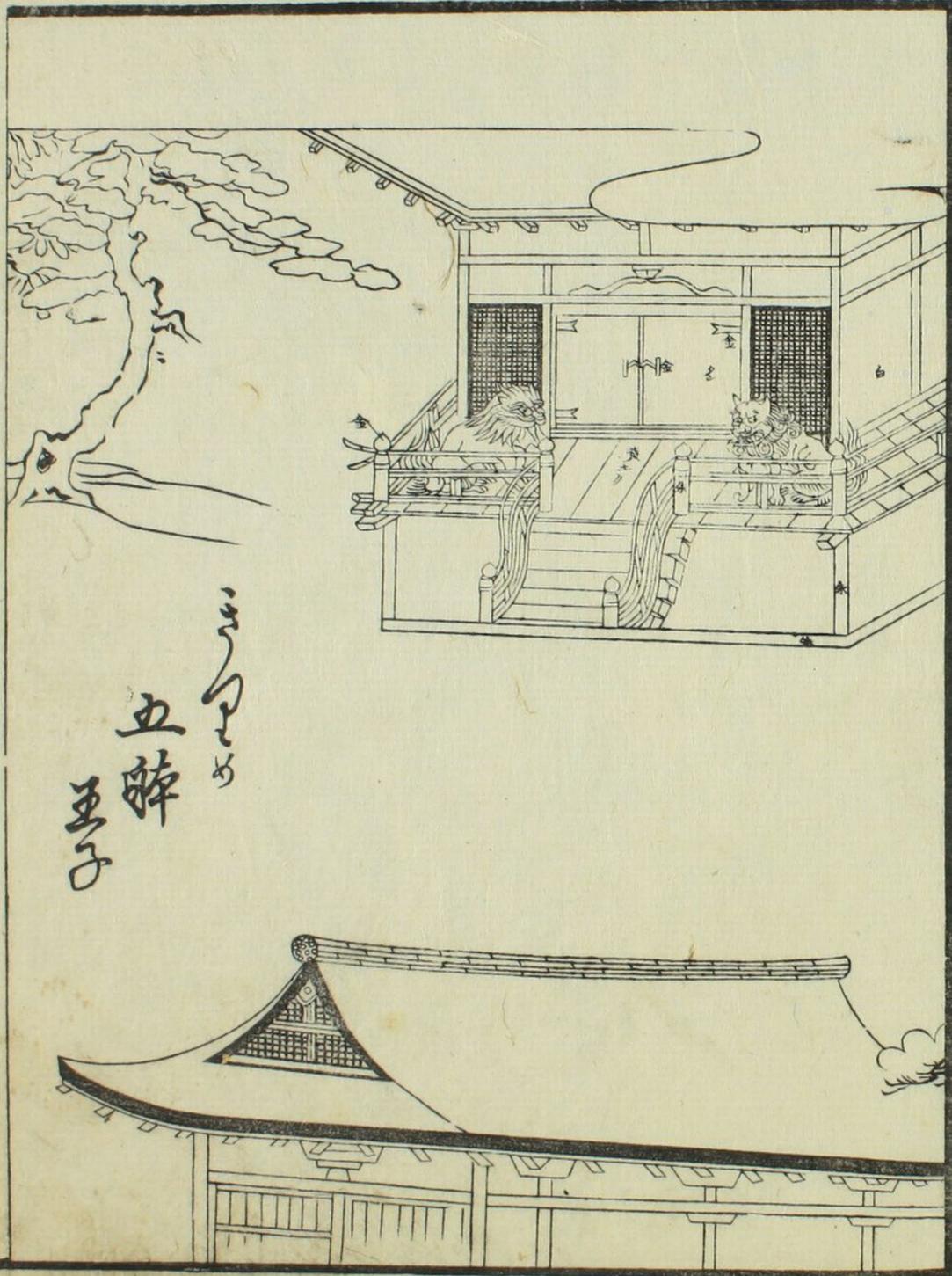
十一日 畧 次参切ア王子

平治物語云

也大業も遂次傳官小も入ら次重代小も入ら也... 家一々るるの御所へ来らんとして...

アハれをすれ首級の内も小惣アて志一くハれと云ふ面... 相成りし時とて思ひハれ難者孰ハれ小依て...





五  
 王子  
 五  
 王子

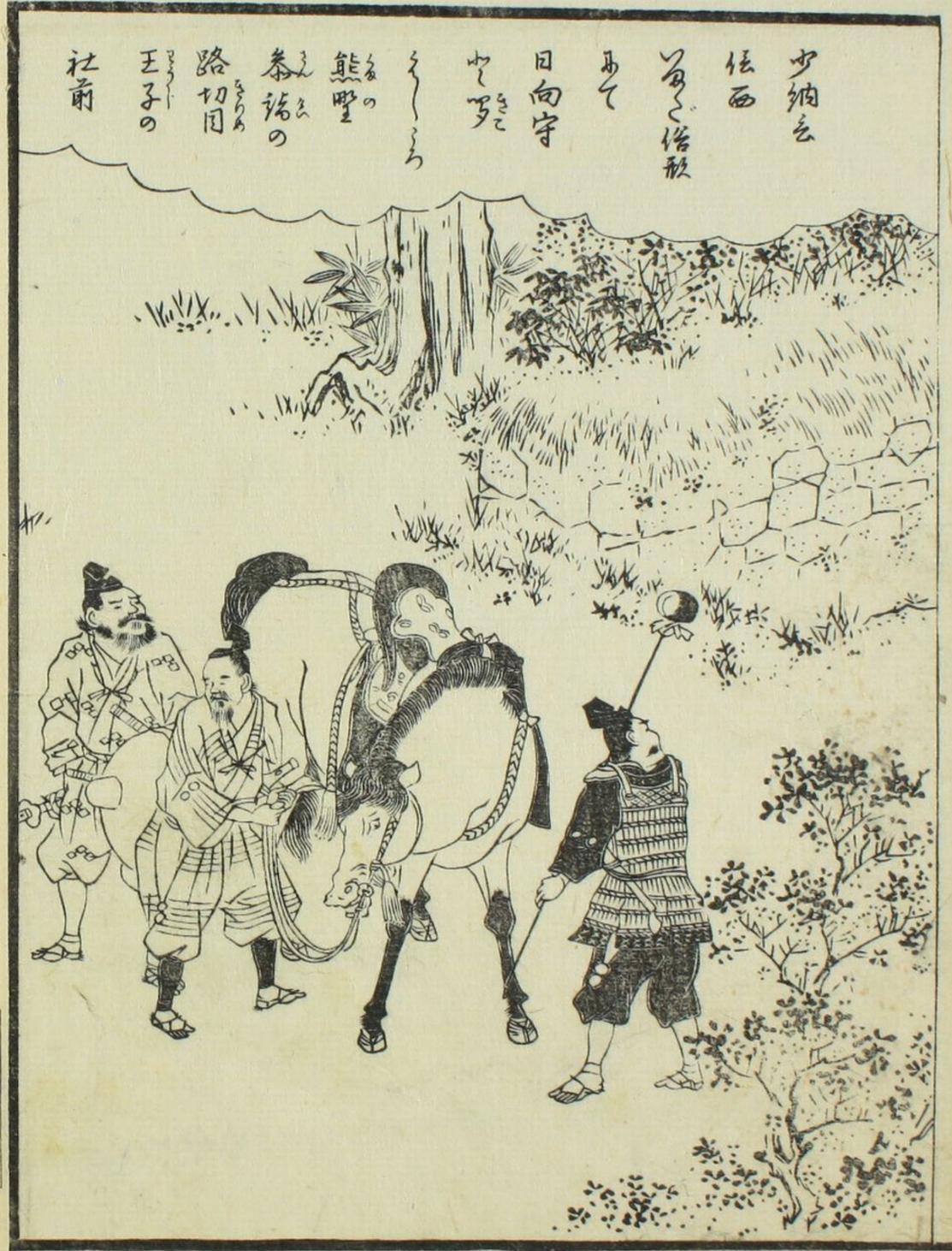


切目王子  
 社古圖  
 道成寺  
 縁起中  
 あり

くそ  
相人  
逢の  
時  
の



少納言  
伝西  
つゝ倍取  
あて  
日向守  
やて  
え  
熊野  
奉送の  
路切目  
王子の  
社前



崇つて懸て出家して少納之入乃任西と云々云々

然形道間王子祠（のりま）のまゝにいつとも当社古より

こぞ小其名をくつえりて祀り神々又倭王子と稱

或は覆文ある（倭）中古々社殿も壯麗なり（一）小文正の名蹟

小罹りて神宝をも焼く其後或比良尾ありて再興

いつ寛文二年官より御帳も御馬等とありて銘

ひ神殿に修飾をも加へり又柳の本と楓の本と式境

内子樹をせ移して今小第なりて當社小柳本と極

させりひしと古より然形治小の必當社の柳本と

かざりしとむれ例の廢りて與りありる意あり

然形治小柳の本を挿しとむれ山城園の稻荷治小

松本系とかざり類の古例ありて神皇の託りあり

子故小の系誠以て神符と次とつて其始を考ふ

ろ小長寛勅文小引これ縁起小大神當小あり地  
玉那本此例といふ小始りて次とありて其地那本乃  
本多き川邊なりて玉那本此例と名つて中たれ  
り多し一して其神靈誠當社小祀りて玉那本と電  
て神の降り多し中縁小よりて其本此神符と次  
ふりてりこれ多しりてりてりてりてりてりてり  
り小もい本此多しりてり推し知るべし

寄題切目王子宫

祇源瑜

蓬萊之山海中時六鼈負負潮噬趾王府銀臺知多少五雲

玲瓏金霞紫切目神殿第幾宮不老貝闕何歲起貝闕窈窕

屹雙桓碧磴青蘿水蔥寒（水蔥樹名）療渴梅泉天淵漿萬古

宝燈金鷲丹南山往々金丹穴傳是羣仙所窟盤紺宇銀月

秋如水芝蓋颺輪駕六鸞帝子降來山之阿風颺々兮珮珊

南海集

珊、鼉鼓雲璈神方樂、玉醴蕙肴藉芳蘭、憶昔元弘草昧年、豺  
虎蚩蚩鯨鯢羶、王家南狩烟塵昏、誰知神光照九乾、宮前夢  
回太白高、龍飛日月錦旌懸、上皇亦曾駐仙蹕、羽從森々星  
冕芾、宸筵歌奏鳳來聽、咨嗟天南富風物、天南風物天下奇、  
濟勝探討究者誰、孫綽天台空有賦、馬遷禹穴跡難追、欲問  
仙宮吾老兵、極目雲海波一鴟、

那木

久壽二年ノ冬、法皇熊野御參詣并御訖宣の條、小略日ゴ口

ノ御參詣ニハ天長地久ニ事寄テ切目ノ王子ノ披ノ葉ヲ

百度千度カサ、ントコソ思召シニ略

三山の奉幣とてげふくればりめ王子のむとこれふは  
揃新れ社の枚のまゝくわくゝて今とくゝめふつゝね

大塔宮社

社の末大教を尊と唱へり  
太平記 小祠を造つて祀れり

とあひてぞ下向一けり

大塔宮社 大塔宮社 大塔宮社 大塔宮社 大塔宮社

浸さして守書くこと量傷まざらんや言堂守りしこ小  
傾り神中神くくハ君蓋そ天くくハらんそハ侍  
を地小投て一ハ小泳を致してそ行申さそハ  
丹泳二の御感意ハくハらんそハ侍も晴小計  
らハくハ侍の御報ハ御新承ハくハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
て枕くくハ侍御睡ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
一人来くハ侍之山の守ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
らん誠法侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
せらハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
見ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
入らハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍

くくハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍

按ずれば文正中大平記小宮ハ鹿角して大峰御堂ハ終小池の略と上  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍  
ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍ハ侍

今やておとせむいふれと里人等あはれふ外とのそひ梅アてまうてさるもれ  
梅ひ目ら憐れとて遂ふこは事と止めしつへてあやうの夜ふる  
まづもはるれ内て十津川たて憐れる樹てつる元日八重食はつひつら

渡切目川拜大塔王祠

野呂隆訓

崎嶇幸脱虎狼唇從此折東入十津偶失一枝安鳳翼更尋  
深壑隱龍鱗天心假手廻西日星氣因君拱北辰只歎寒流  
乾欲絕誰薦祠下淺灣蘋

御所屋敷

切目王子の社地の良小つて後鳥羽院慈覺寺幸小正治二年十二月二日

御幸記

参初了王子入宿野寂校少海人平屋也御所前也但國占宛云小時御  
幸入御步晚景又有題即書之持参戌時許如例被召入讀上  
了退出曾無極品羈中聞波野徑月明

うらもあねとふや小浪のうねのまろしと松の風さるるも

於此宿所塩垢離カク眺望海非甚雨者可有興所也病氣不

快寒風吹枕

切目宿今れ西野地村

平治物語云

平治元年十二月十日れ庵と波羅よりの立し子馬  
切目れ宿あり追付しり器大貳法盛ら然れと系治と  
不遂し切目の右より馳上るけり云按しりて是後抄云  
回迎たねの事といふ事云小は事と云して  
文田をたぬし引し

憲法傳信記野山入舎記云

十三日終夜雨降今朝雨脚止了次著切目宿南望雲海沉沉  
而浸月前開月浦皎々了如秋有興有感柱記云了

望遠蒼波萬里雲心窮旅館一宵夢

水崎久道

詠二首和詩

遠山落葉

あきればはきはきいづるや  
とみはさかきも雲が  
こぼちのやうに

海邊眺望

うらぬにがみの秋まて  
雲をきいてけし月のの  
けうさくむし

詠遠山落葉傳歌

右を傳大將通訳

こわのやうにせふ  
みちこちわきてふ  
おいらはさかきも  
こまりの

海邊眺望

あつぬさけをちえ  
ふのふちのむきは  
いしをあらむる  
伊勢かふ

詠二首和詩

春宮亮藤原範光

遠山落葉

あきつゝはきつゝの  
のいよとあきよ  
るよのさうな

海邊眺望

あきのあきつゝの  
くわらわらわら  
ちうらうら

詠二首和詩

春宮亮藤原範光

遠山落葉

みわつはきつゝの  
ちわらわらわら  
あきのあき

海邊眺望

あきのあきつゝの  
みわつはきつゝの  
あきのあき

下は舟  
あきのあ  
きつゝの  
あきつゝの  
あきつゝの  
あきつゝの  
あきつゝの

冬自於切目王子詠二首和歌

二位上流行藤原朝家隆上

幸山落葉

あつちのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

海邊眺望

いそぎのひのやうに  
そつれなきわらわ  
ゆきれのこころ

詠遠山落葉和歌

侍従藤原雅経

いそぎのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

海邊眺望

いそぎのひのやうに  
そつれなきわらわ  
ゆきれのこころ

詠二首和歌

能中源具親

幸山落葉

いそぎのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

海邊眺望

あつちのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

詠二首和歌

沙弥宗蓮

幸山落葉

いそぎのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

海邊眺望

あつちのこころをさしこぼ  
まはさしおほひやうあはれ  
いろのこころなわ

詠二首和歌

散位藤原隆實上

遠山落葉

やまのゆるあゝもあや  
いむくもさかちりくる  
あまのまきれは

海邊眺望

わさねささるるらんらん  
あまの月かかきか  
あまの志ま

詠二首和歌

散位源家長

遠山落葉

もみちるやまをら  
あまのまきれは  
あまの志ま

海邊眺望

あまのゆるあゝもあや  
いむくもさかちりくる  
あまのまきれは

詠二首和歌

右馬の六尉孝景上

遠山落葉

あまのゆるあゝもあや  
いむくもさかちりくる  
あまのまきれは

海邊眺望

あまのゆるあゝもあや  
いむくもさかちりくる  
あまのまきれは

此懐中十一枚

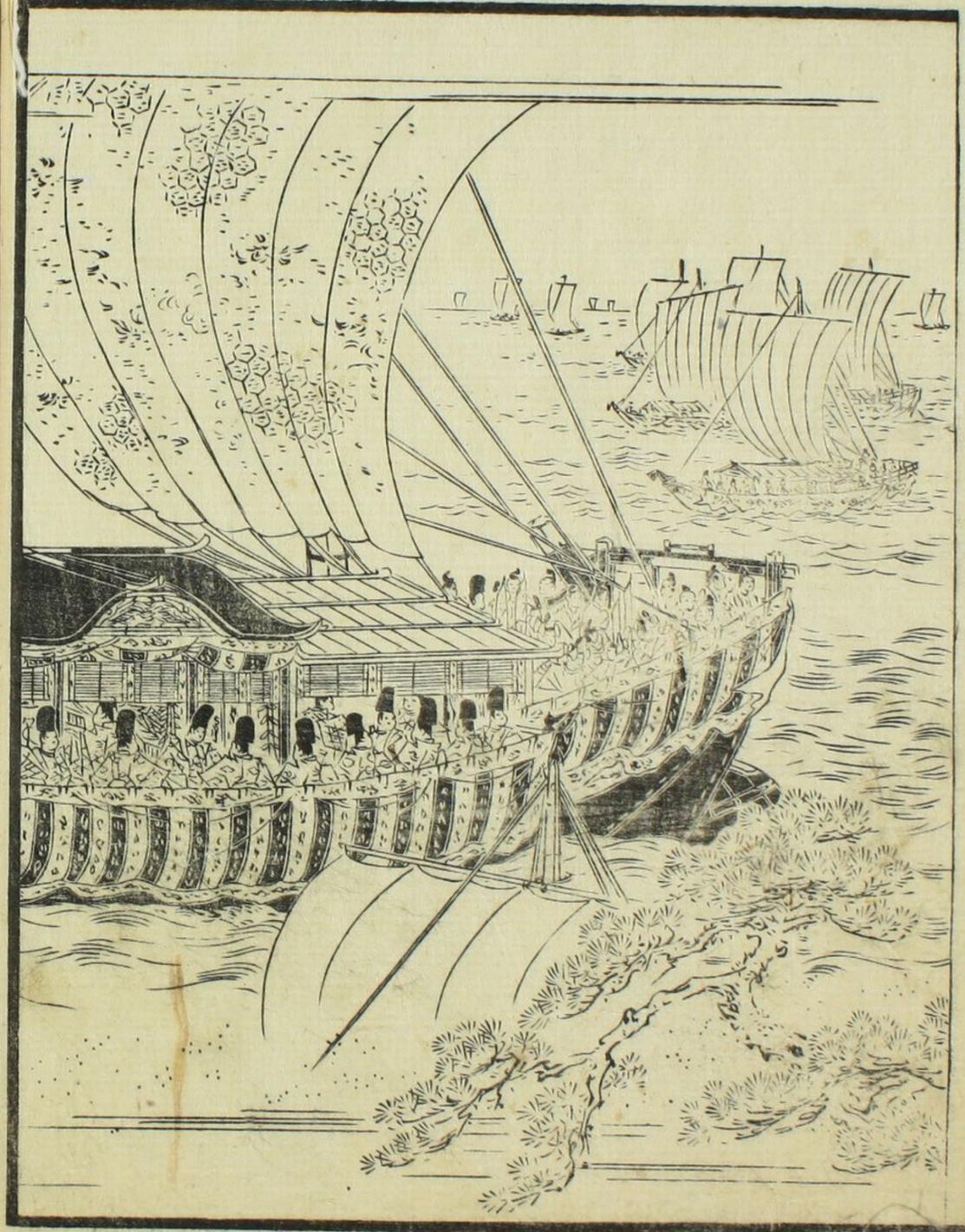
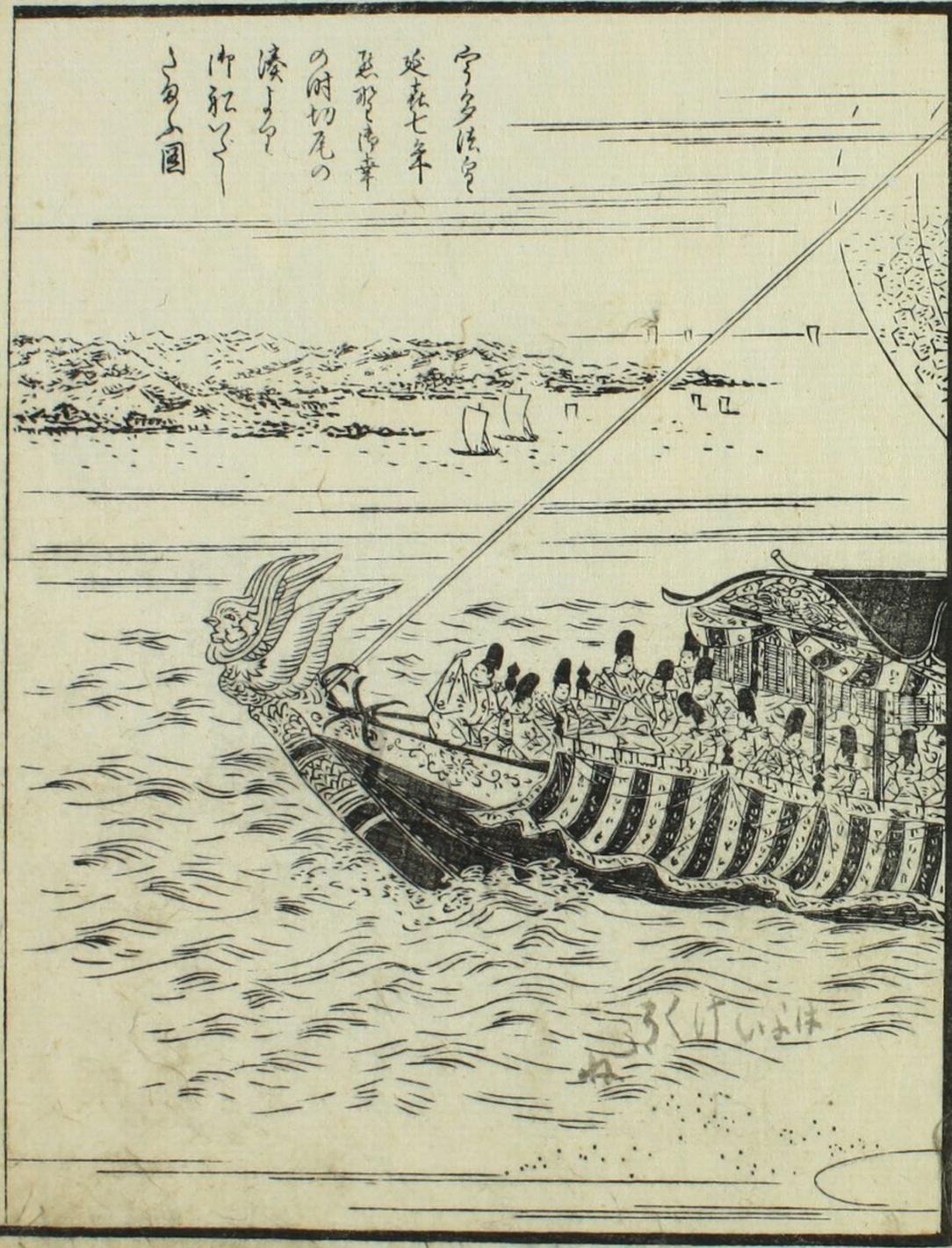
後鳥羽院御製

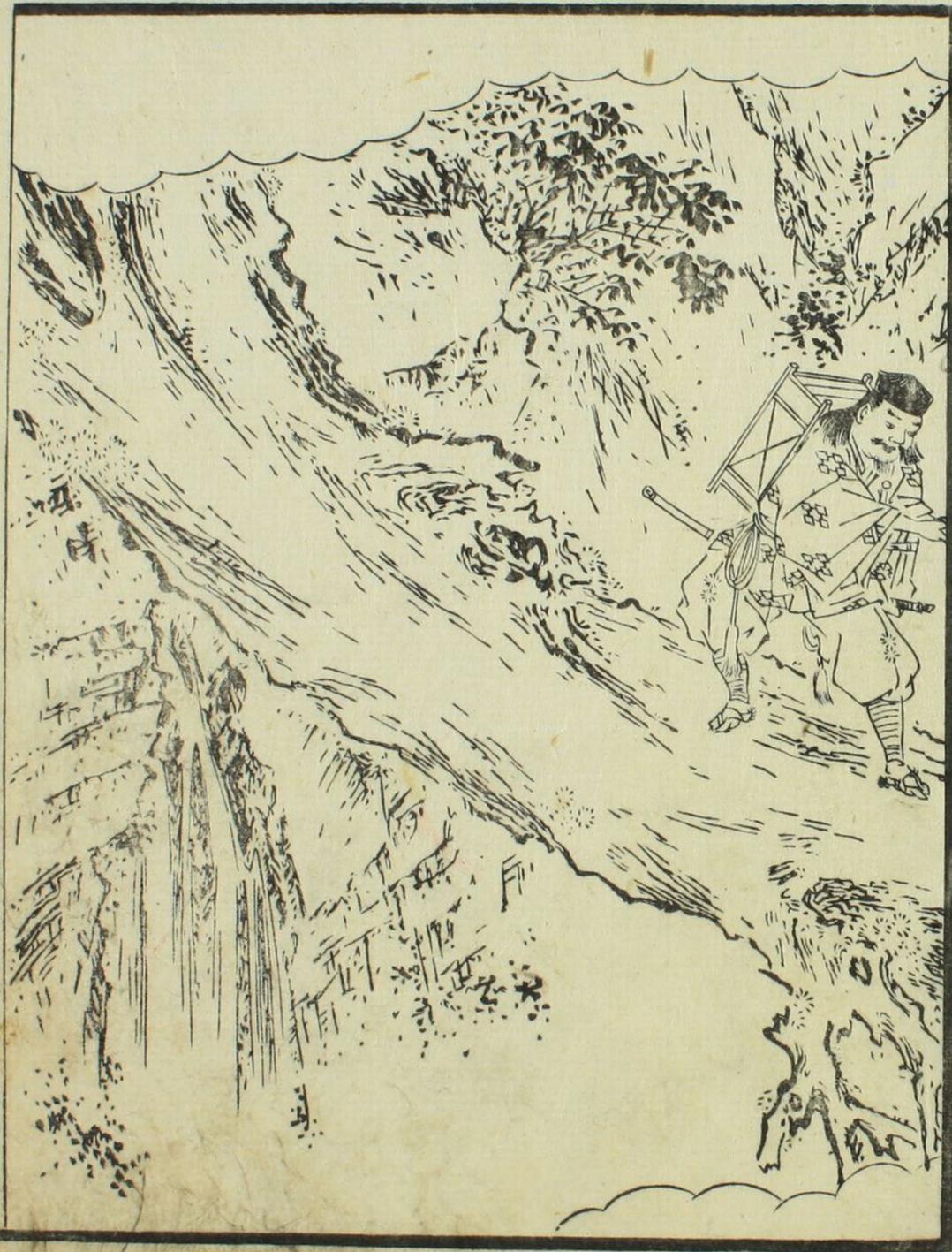
下志記也尤可

奇歌者乎

竹濠子御判

宇多法皇  
延和七年  
長門津幸  
の御切尾の  
湊より  
舟船  
のりて





切尾湊

扶桑略記小自切尾湊御舟と云れども今其所夷と失て按て切尾川の海口の西乃... 延喜七年十月熊野御幸此條二十七日辛酉及夜仲平朝臣

自紀伊國末復命法皇以去十一日自切尾湊御舟赴向熊野

神社云 令文御幸の 條に載り

切目川

玉那本

切目川 係り山地位を境けり... 玉那本 係り小川あり

新八幡宮

百王子塚

眞妻明神社

新八幡宮 古本村... 百王子塚 下津川村... 眞妻明神社 松木村

凡四編六三三

切目畝

か

又親

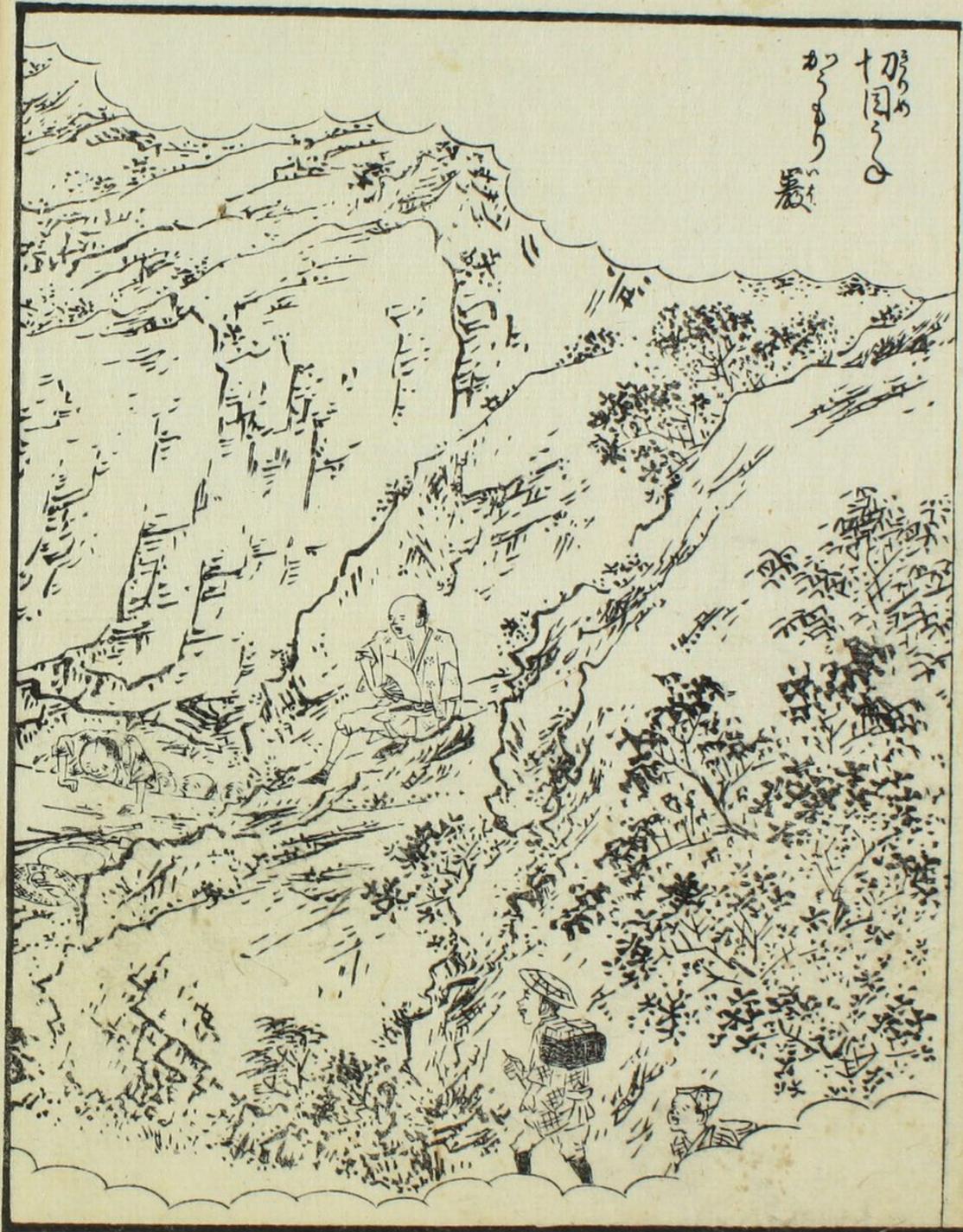
樫川

先勝寺

切目畝 内村にも同様を記す... か 切目川に源二流... 又親 切目川に源二流... 樫川 係り山地位を境けり... 先勝寺 係り山地位を境けり



岩穴の口ニ三分と修して  
 是が岩のやうに下りあり  
 ありたる一巨巖を昇  
 りて上りて巖のつらみ  
 巖のつらみは巖のつら  
 みより一物もかゝるは  
 小室つらき岩のつら  
 けかたつらき岩のつら  
 岩中に出入りては難し



十国  
 か  
 巖

社、欽、鏡、掛、又、川、久



岩首寫生



色ハ藍緑の如くふとて輕嫩  
尤も此の漢名を苦苣と

つとて

四十四

○中山

中山 殺目山往及道之朝霞髮髮谷八妹爾不相年

○中山王子祠

中山王子祠 岩代村東面二村と云ふ古蹟と云代と云ふ

○岩代莊

岩代莊 岩代村東面二村と云ふ古蹟と云代と云ふ

○岩代園

君之齒母吾代毛所知哉盤代乃園之草根乎去來結手名

○吾勢子波借廬作良須草無者小松下乃草乎荊核

式子内親王

○岩代

岩代 前大納言基良

○盤白乃濱松之枝乎引結真幸有者亦還見武

雅有

後戻しと  
 しの〜と松の  
 こゝろさへ  
 じよ〜とさつ  
 老や〜ねらひ  
 瀬見善降  
 忠代の巻中の  
 今うとあれ  
 え〜とあひ  
 ねと神  
 さ〜い母  
 そ〜と  
 加納文廣



い〜ちの  
 岩代  
 い〜ちの  
 結松



□ 盤代乃岸之松枝將結人者長忌寸意吉麻呂見結松咽歌二首反而獲將見鴨

□ 盤代乃野中山上臣余立有結松情毛不解古所念

□ 鳥翔成有我欲比管見良目大宝元年辛丑幸于紀伊國時見結松哥一首社不知松者知良武

□ 後將見跡君之結有盤代乃子松之宇禮乎又將見香聞新勅撰集

□ 幸とて又多みけれ松も結ひやかきく山家集岩代の松 前大政大臣

□ 岩代の松風さけりもれあふ人も心むむとわれを西行法師

□ 岩代の松吹風おけり兼いんもどくぬ妻や頓阿法師

□ 歌昭云いささか紀伊小石代袖中抄の石代と云ふの石代と云ふは

孝徳天皇齊明天皇の皇子小石代と云ふは馬皇子と申みく後忌部宮御宇天

皇代齊明天皇の皇子小石代と云ふは馬皇子と申みく後忌部宮御宇天

松を枝をひき結志幸の松をひき結志幸の松をひき結志幸の松をひき結志幸

之名抄云近來此人石代と云ふの石代と云ふは

人の養也結松と云はる小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

らよむ小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸の松をひき結志幸

今按小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸の松をひき結志幸

次松が枝とむ小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

長く千とせも小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

風吹らる小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

れさ枝小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

子小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

造小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

葉小松の松をひき結志幸の松をひき結志幸

呉がれども 孫ぶきこり 同よりまじり 終る何ふあもり  
あぶら 城松も 孫ねも 地あて 孫びらへ 孫ら 故に  
わん ぐれど 其傳 孫く 孫これ 神中抄 中も かくく へる  
あつて 地今 八内 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も  
孫代と 孫つ  
とて 孫を 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び 孫び

巖城結松

那波道圓

別離雖惜事皆空 縮柳結松情自同 馬上哦詩猶予古

寥々一樹立秋風

家集

岩代の松 風ふき 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く

年浪草

岩代の松 風ふき 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く 孫く

岩代山

夫木抄

孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も 孫も

平忠度朝臣

岩代尾上

紀四編六六六

後拾遺集

堀川百首

明日井集

萬葉集

庵主

新後撰集

新編古今集

口

家集

夫木抄

家集

前太宰帥資仲

仲實

雅經

増基法師

大藏卿隆輔

參議雅經

從三位範宗

後鳥羽院

守覺法親王

為家

須徳院御製

岩代系

新撰六帖

岩代王子祠

西岩代村に殿して磐城古及浪速水河等所幸記の文より此の磐代王子祠の側より所小倉所所りて其より千里此後をこて千里王子社

みく内系といふ小山にありては所小倉所の跡なりと云ふ磐代王子祠の跡は所小倉所といふなり今此社地所小倉所と云ふ事七八町ありて所幸記に符

十二日略次出濱參盤代王子此所為御小養御所無入御此

拜殿板每度被注御幸人數先例云右中身召番匠板放天力

ン十ヲカク書入數天如元令打付之建仁元年十月十二日

由以左中身申入即可被聽上北面之中書着無術之

御幸四度

御先達權大僧都法印和尚位覺實

御導師權大僧都法印和尚位公胤

内大臣正二位兼行右近衛大將皇太弟傳源朝臣通親

次々如此殿上人上北面僧寛快已下三人下北面皆書之此

十四日略次經浦路參岩代王子面々注一首愚作云

眼疲蒼海千里望響潔綠松數曲調

新古今集

岩代の神はるるんまろへよれたのむらむらこれ多れり来よみ人し次

玉葉集

岩代のれ小松と松ひきて百代そのあよそそ中川 後白河院御製

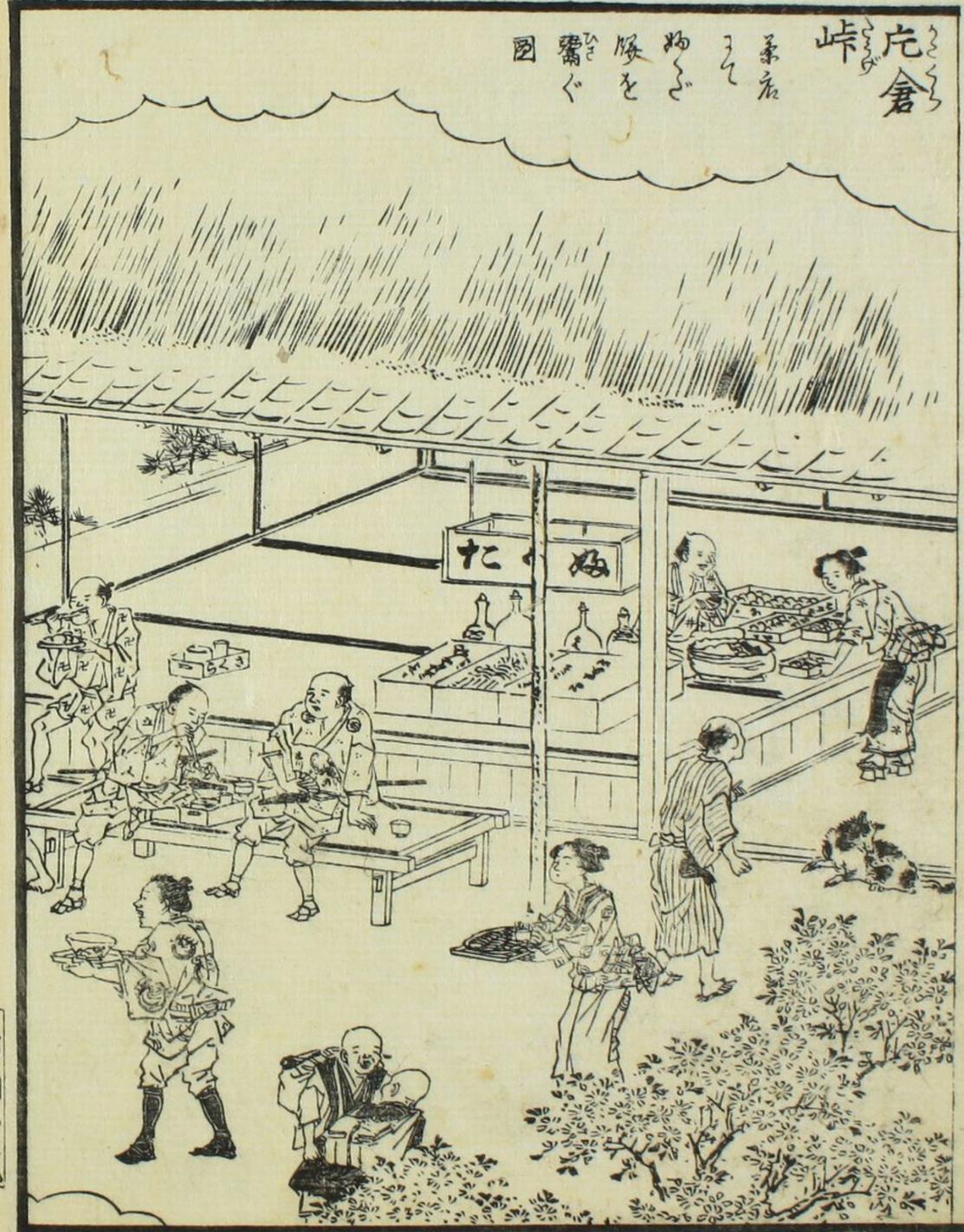
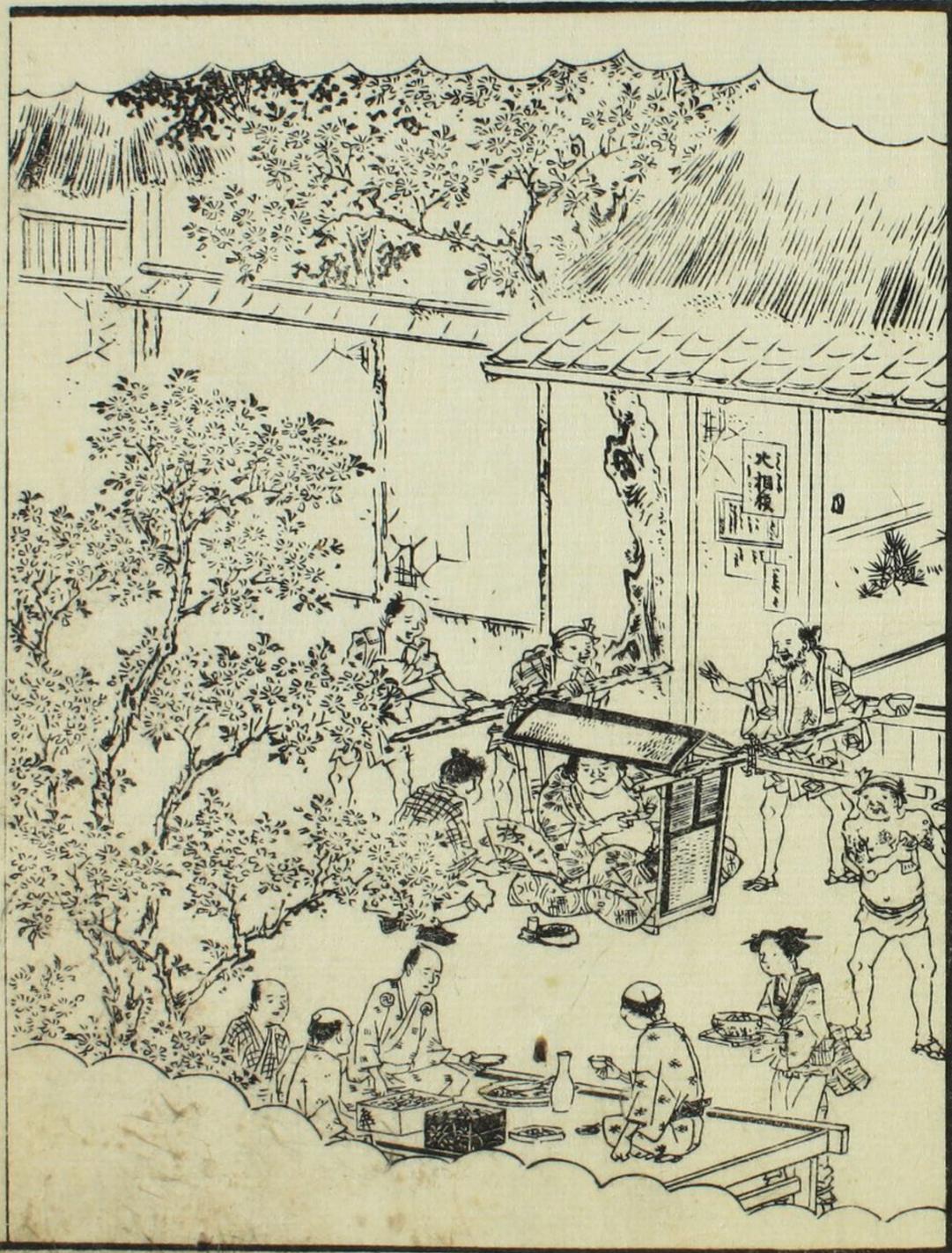
新統古今集

和氣種成朝臣

平家物語

元暦元年平惟盛能登落小藤代のまよと和くしてまよ  
王子とゆいねまよわありまよ小千里此後の小岩代乃王  
子此後まよふて持装束しつれ者七八騎が持行ひまよ  
とまよ小まらありまよいん次とがなり各後の方小まよとけ





つたれ人のうぐさしれもつておひつたてんてこれより麻の一名を  
子つたれ人しゆくさみ麻の皮子て形よりつて名づけらるる推書漫筆  
千坂東の田舎人と安徳川餅をうさたをいふといひりうぐさの麻の洗を  
一塵添埃賣鈔小年始二人ゴトニ餅ヲ賞翫スルハ餅ハ福ノモノナレバ祝用ル歟又二人  
向ヒ餅ヲ引ワルヲハ福引ト云ナラハセルモ故ナキニ非歟又大裏ニ餅ノ名ヲ福生菓ト云  
フといひて見ゆふふと縁の義ありりなりといふれよつて起れるなり又著聞集  
十六坊城三信入道雅隆のいふ云の條古事談二業房龜王兵部ノ時ユメニ卿  
所ヲ奉被追打ト又ていふ物流の條ト云ふふくくといふといふといふといふといふ  
といふといふといふといふといふといふといふといふといふといふといふ  
といふといふといふといふといふといふといふといふといふといふといふ

○引本坂

○南部

千坂東の田舎人と安徳川餅をうさたをいふといひりうぐさの麻の洗を  
一塵添埃賣鈔小年始二人ゴトニ餅ヲ賞翫スルハ餅ハ福ノモノナレバ祝用ル歟又二人  
向ヒ餅ヲ引ワルヲハ福引ト云ナラハセルモ故ナキニ非歟又大裏ニ餅ノ名ヲ福生菓ト云  
フといひて見ゆふふと縁の義ありりなりといふれよつて起れるなり又著聞集  
十六坊城三信入道雅隆のいふ云の條古事談二業房龜王兵部ノ時ユメニ卿  
所ヲ奉被追打ト又ていふ物流の條ト云ふふくくといふといふといふといふといふ  
といふといふといふといふといふといふといふといふといふといふといふ

庵主

千坂の浦に築いたる

清少納言記

大鏡云

花山院の御出家の幸意に... 増基法師

千坂東の田舎人と安徳川餅をうさたをいふといひりうぐさの麻の洗を

つたれ人のうぐさしれもつておひつたてんてこれより麻の一名を  
子つたれ人しゆくさみ麻の皮子て形よりつて名づけらるる推書漫筆  
千坂東の田舎人と安徳川餅をうさたをいふといひりうぐさの麻の洗を  
一塵添埃賣鈔小年始二人ゴトニ餅ヲ賞翫スルハ餅ハ福ノモノナレバ祝用ル歟又二人  
向ヒ餅ヲ引ワルヲハ福引ト云ナラハセルモ故ナキニ非歟又大裏ニ餅ノ名ヲ福生菓ト云  
フといひて見ゆふふと縁の義ありりなりといふれよつて起れるなり又著聞集  
十六坊城三信入道雅隆のいふ云の條古事談二業房龜王兵部ノ時ユメニ卿  
所ヲ奉被追打ト又ていふ物流の條ト云ふふくくといふといふといふといふといふ  
といふといふといふといふといふといふといふといふといふといふといふ

海面千里無涯岸白浪金波衝碧天風上行  
帆何處去不知眼境夕陽前

於千里濱即事  
左勝

牡丹花肖柏  
左近衛將藤原定家  
左中將源通光

淨忠

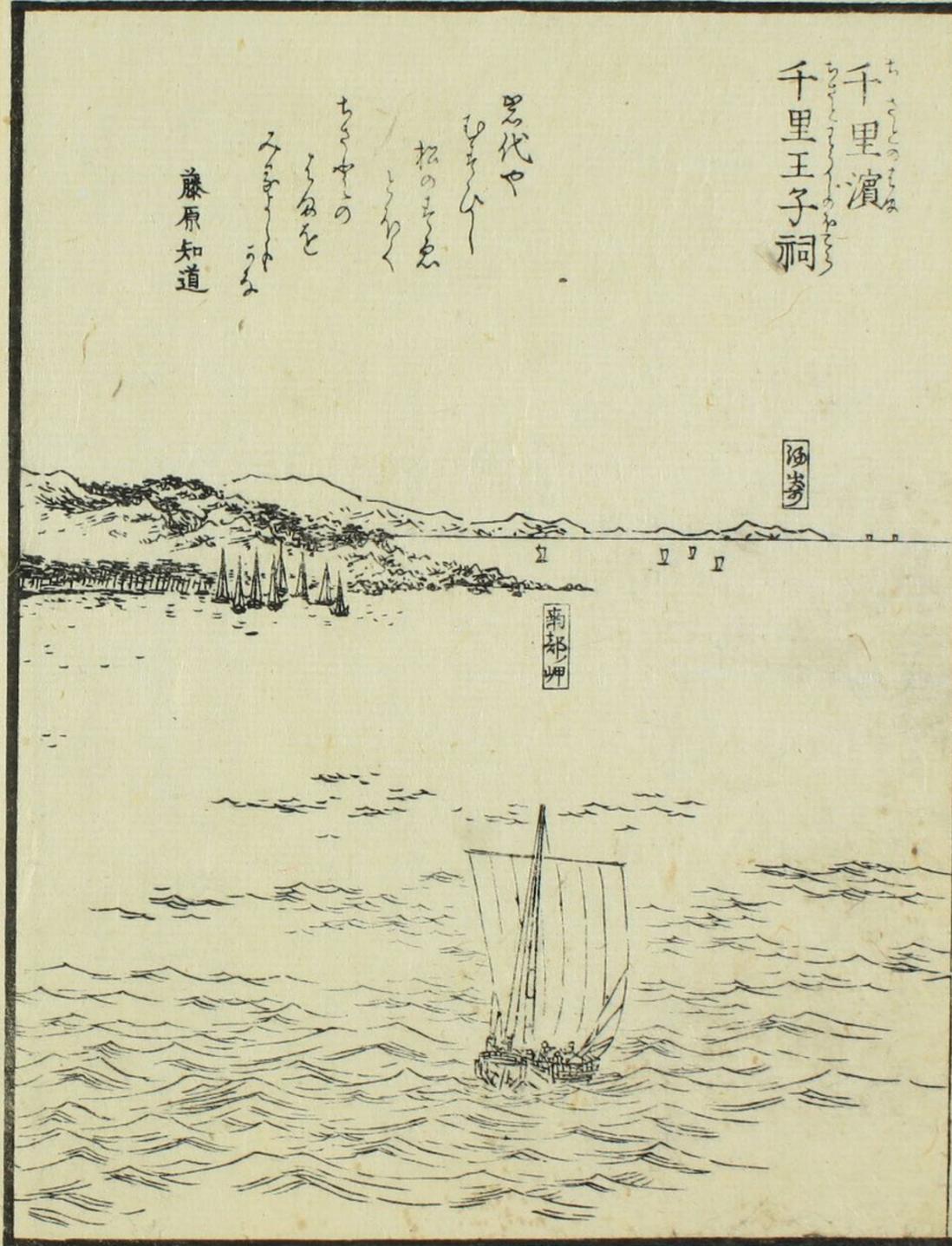
寂惠法師

千里濱  
千里王子祠

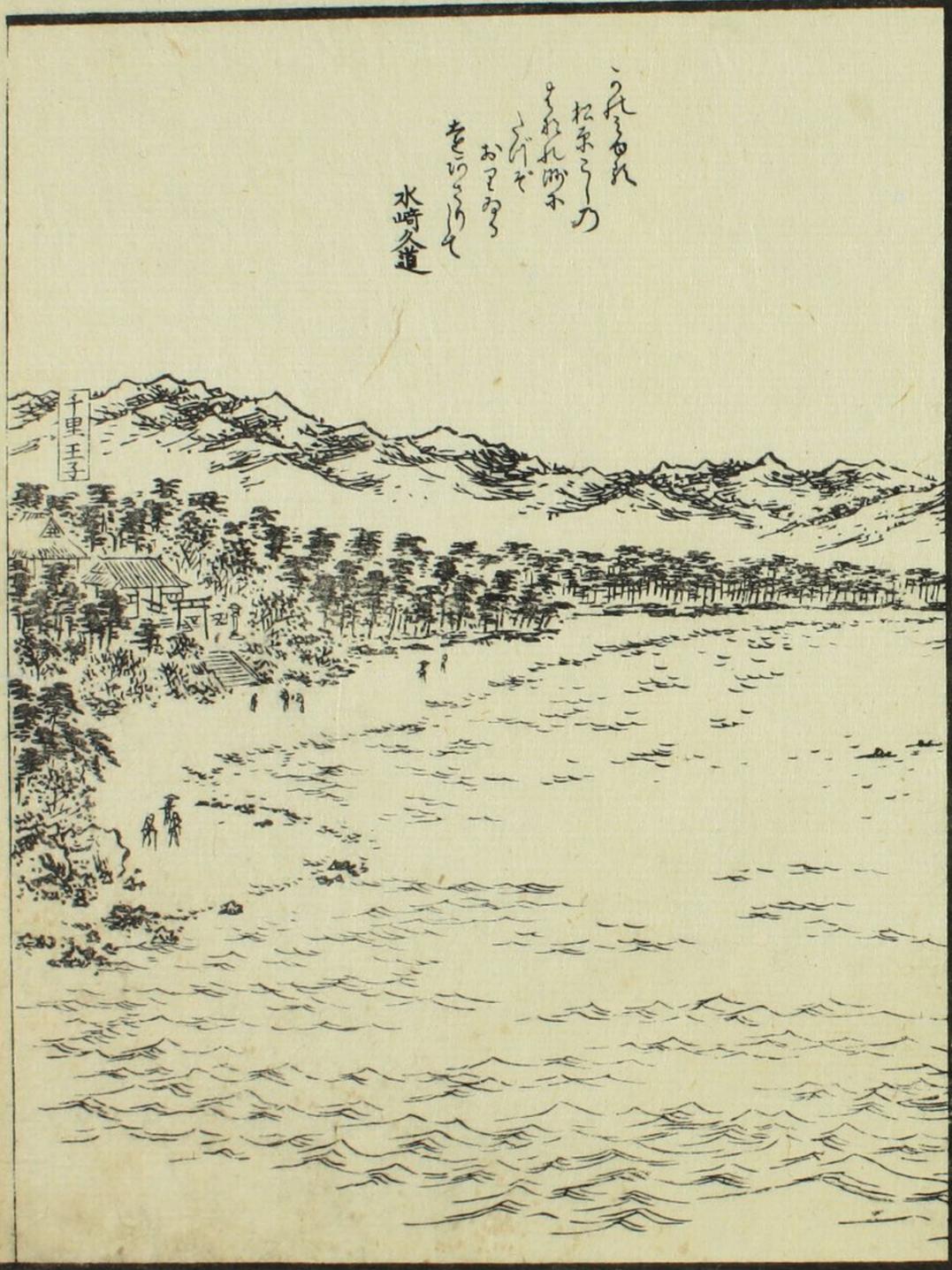
思代や  
ひきひ  
松のまゝ  
ちやの  
くまを  
ふき  
藤原知道

海舟

南都岬

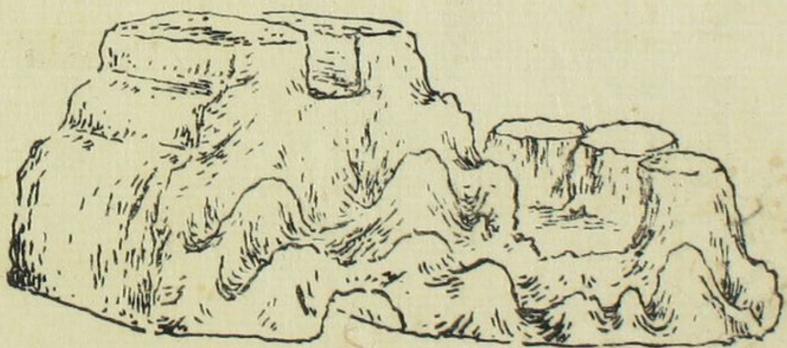


松葉の  
おまけ  
水崎久道



安藝國福王寺藏

千里濱名石圖



千里濱名石

右

秋の月影の淡風あざむる清波の秋乃小幸

夕陽斜影雖甚薄夜月清輝難當暈

本年記云

元弘元年七月三日大地震のついで紀伊國千里濱に千倍  
餘小陸地とせざる二十余町

因つて平家物語長門本統が鴻の條小つと濱海に  
つづれあむ千里に濱あひ出らして山川谷河を流るあま  
烈業は人のつぎれ飛ぶやう消ゆれもれとたのち  
くぐりあひける

千里王子祠

千里濱小つと平家の子一対三具を祀る寺と神寺

御幸記云

自是又先陣過千里濱

此處一

参千里王子

産物珊瑚砂

千里に濱くま珊瑚樹の

名石

此石既傳して今安藝に傳ふとて藏して磯石といふとて磯砂傳ふ  
かの寺くま玉とて其石の形似ふとて其れ多と傳ふは其れとて載

じうたうらこと申次女御をけけり梅山より小法奉りて  
かひ子れ涙あきぬ子らう うせあひてう七日のみまごて安祥寺  
かきうりし流しり あくまをうと右大将藤原のほゆことつめ人いさうら  
 つけり其御業小法くあひてうさふ山志まのぞん  
 ーれみこおさーまは其山志のまふ小瀬かーあ  
 ーせむむーあもーうーつーられらるふまうーあ  
 終て幸頂よをめらほらうまうれどちうくいさうつ  
 うまは流し頂こふひかーらうらうんと申くあふみ  
 こつらうひたまうてようれ流すーれもーけせさせあふ  
 けおわれ大將いであたをうとあふやう言つう魚のえ  
 ーめうたうらやわらうらうと條の夫み申させー時紀  
 れ玉の千里れ流くまをれいとあもーろき石くまう  
 せりさ夫みゆこのほたうまうらうらうらう人のみ

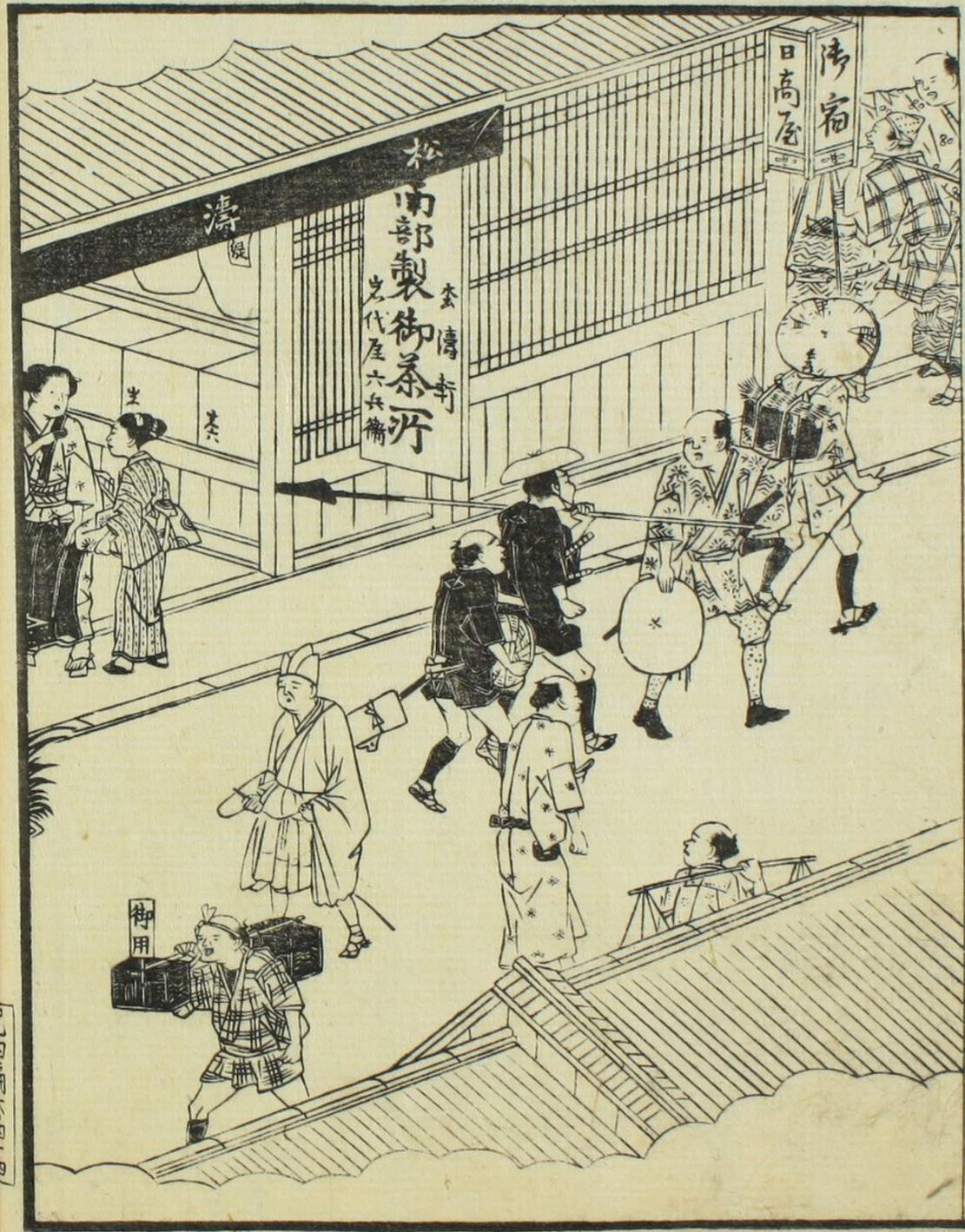
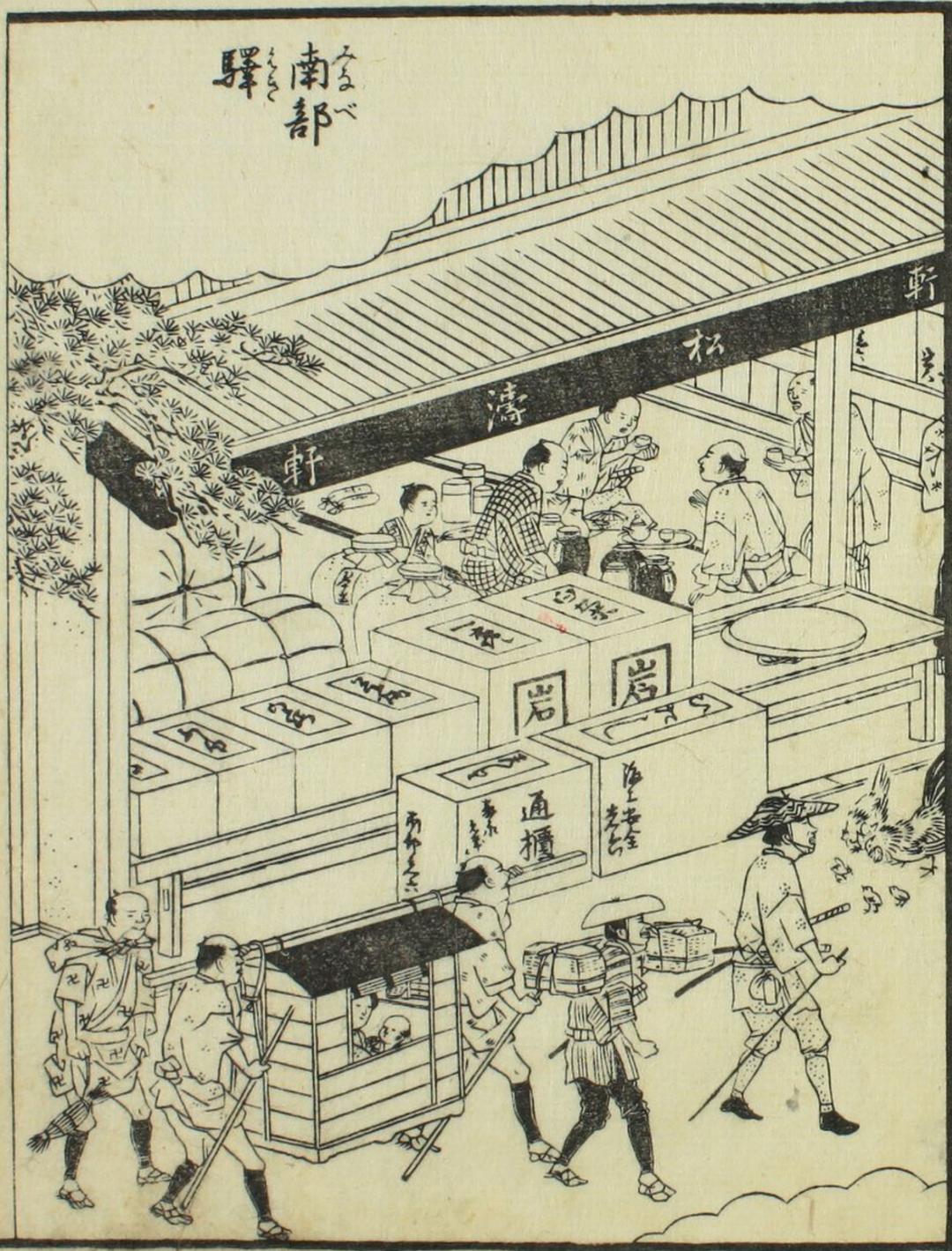
さうーれまへれみぞうさるをうらー流流くれま  
 夫がうたてまうらんとのーあひてみまごいおんらう  
 ーととりみほらる流いくまもあうてもてさぬこの石  
 せーようさみうらまをれアこれとーうたてまうら  
 ぶらうがれーとて人く致うあせうあ右のうぬれま  
 ありける人のとびんまう言城さばらう藤原のうー母  
 け致城はくまうたてまうらま  
 ーあーあもか入る色えまねん城みせむー  
 のけけ流くーおんよありける

同津崎 幸村の坤海上に築出たり  
 甚だと大もがらうらう

千尋流 又千色流とも云ふとも今保うらうばう流の末とていへる  
 ちんろの流 又千色流とも云ふとも今保うらうばう流の末とていへる  
 ちんろの流 又千色流とも云ふとも今保うらうばう流の末とていへる

拾遺集

夏代をうらまれの記のふれまれ流のまゆらう せすけ



御所原 千里漢より

長秋記云 長兼三年二月四日 甲申 巳時於千里有畫養事

○南宮川 内村に氣依藤相の塚と傳てて姓を

○南宮驛 市街をけせりてとて古く南宮驛と云ふも

○揚尊寺 文の元を此院奉りて什物多し

三瀧王子祠 北乃村より古くありて

御幸記云 次參三鍋王子自是入畫養所食了參御所之間御幸已出御

自此宿所御布施以忠弘送進之緒六足綿百五十両人三匹

安養寺 是村小のりて七堂伽藍此地なりと云ふ天正年中意記孫記等皆焼滅し其後

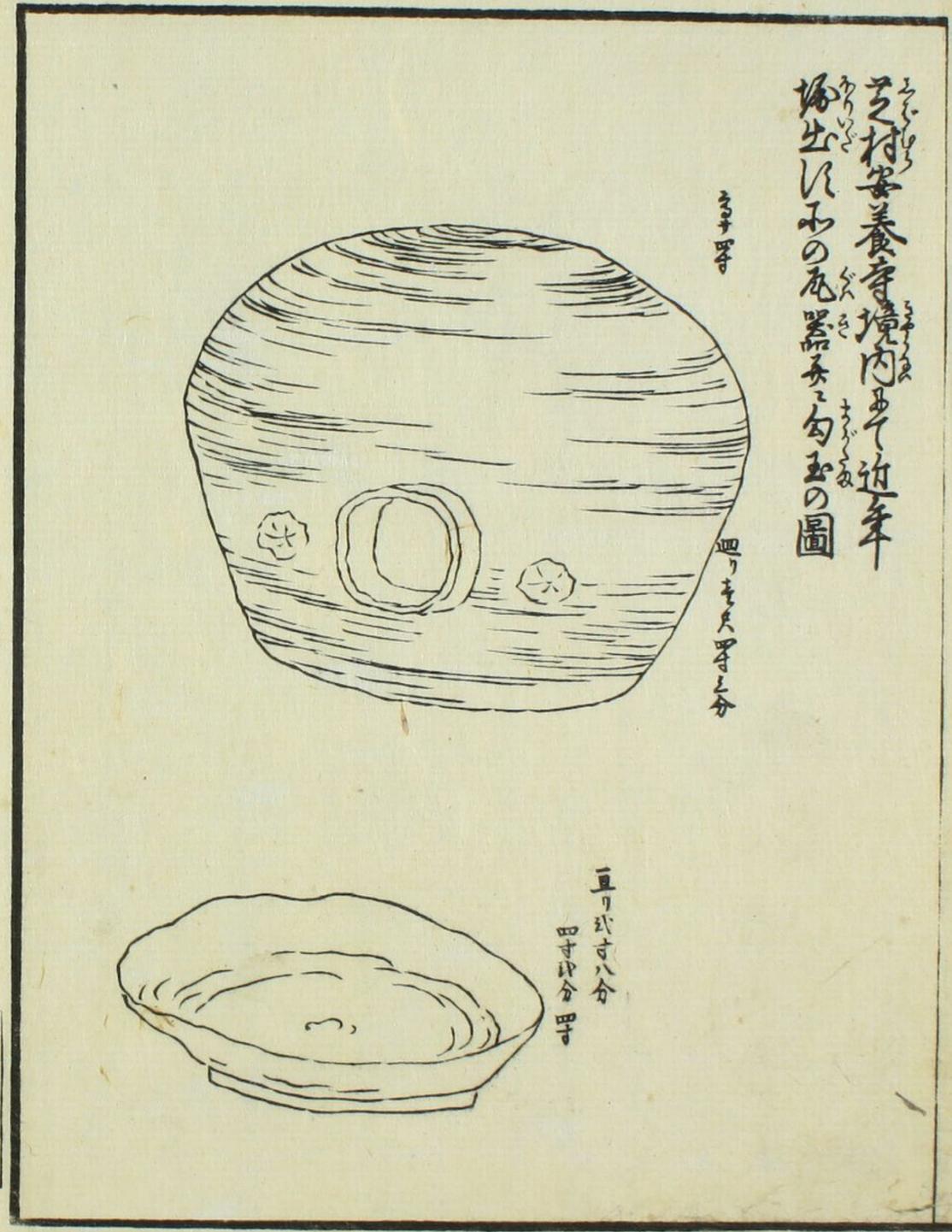
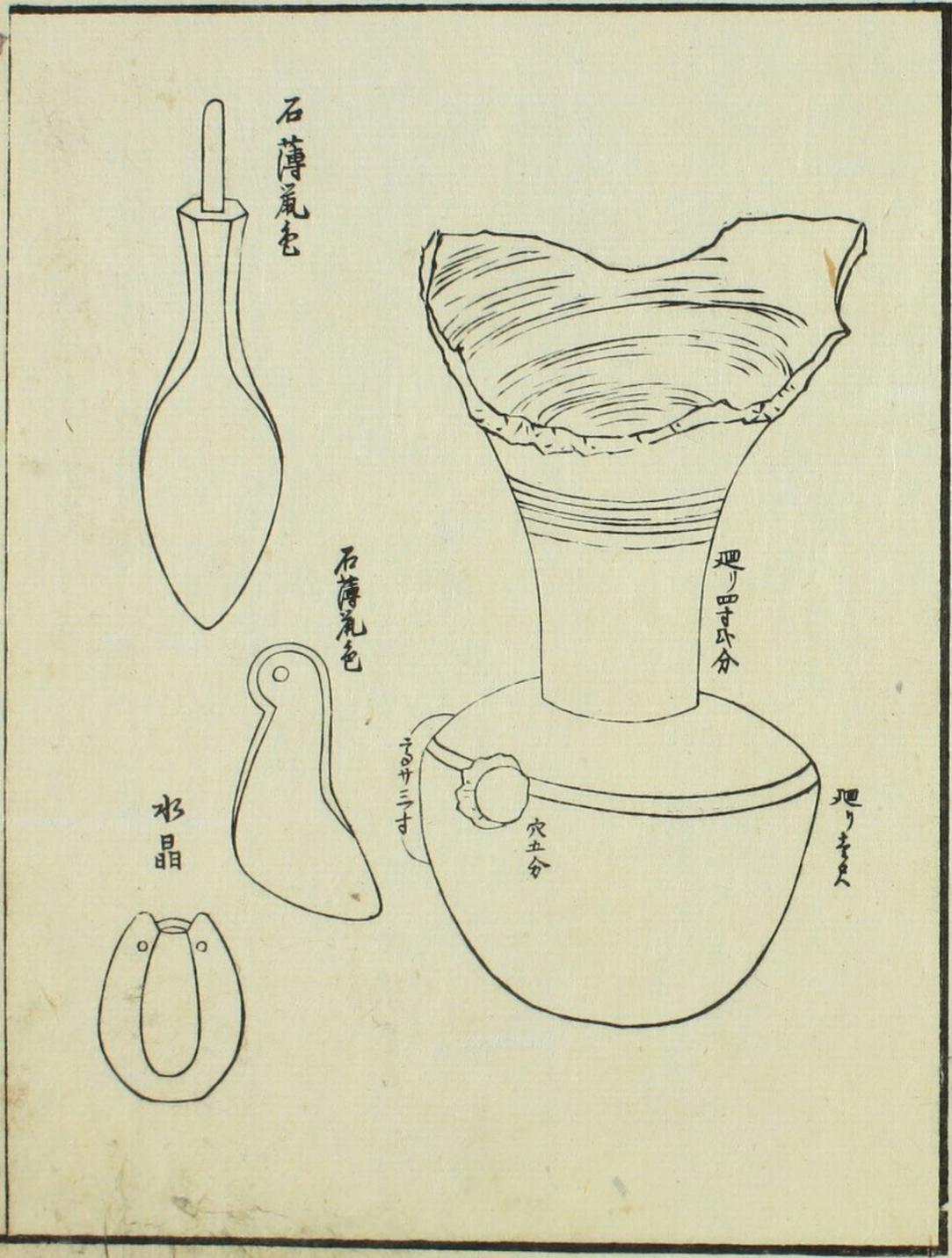
文永十年此石碑教養と稱出以文字廢滅して後むへうは唯為先考往生  
極樂所造立比丘尼持蓮文永十年十二月日嘗此文字此より其頃の大家  
と云ふりけれと傳記存るは當り今ハ西本庄村所置社の林文さびり

三鍋新浦 南宮驛の海濱なり万葉集

みまれば漢くまるとる人のみやよるとゆふよひ

ね同どうもろともふあうでまうーとつハのくる人  
思ひて申あふともうらむとつハ唐女一何さ  
りわん抽うとつハいほとつハわとつハひらひらとつハ  
まのさざりにはるげやたなまぶれわうひぞさるる  
あれうらわらうらひひらひらとつハかろるれうとつハ  
こせうらまの浪あもうらひて打よせらあやうれこめ  
入ぬる磯のつハのくる人こる日々とつハの浦の浪やうら  
つと唐女くまれのつらうとつハの浦の浪やうら  
ふるふらうてたよるかーとつハとつハのくる人中  
あそ

よ不草浪うらむとつハの浦の浪やうら  
つと唐女くまれのつらうとつハの浦の浪やうら  
ふるふらうてたよるかーとつハとつハのくる人中  
あそ



芝村安養寺境内にて近年  
堀出所の瓦器等之白土の圖

日本書紀

哥枕各寄

家集

異事

ある天の年中南詔那... 浦人や流る... 大僧正宗信

道祖神事

外續今傳

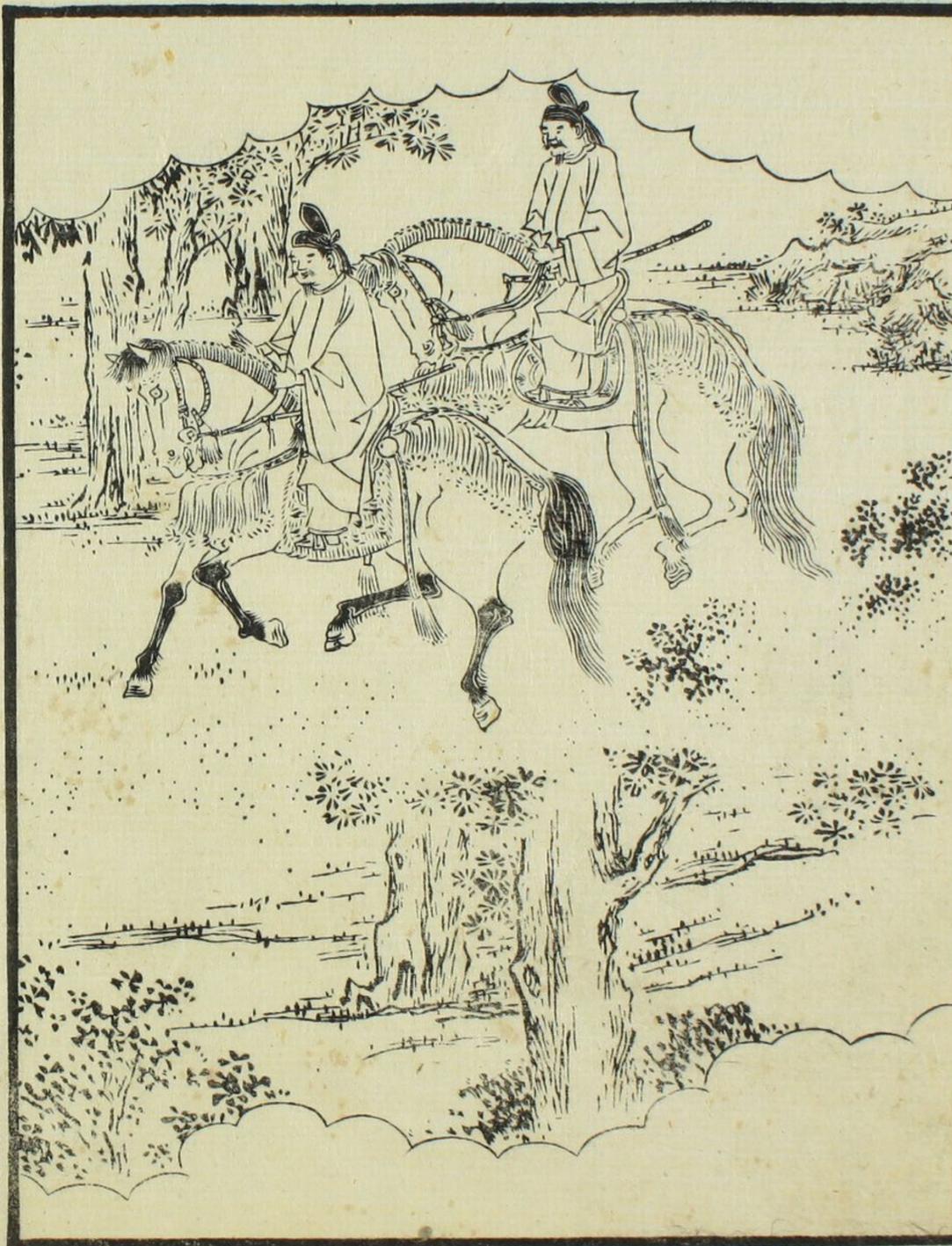
紀四編六甲六下

今昔物語集云

天王寺僧道公誦法華救道祖語第卅四

今昔天王寺小住む僧... 今昔物語集云... 天王寺僧道公誦法華救道祖語第卅四

今昔物語  
故事の圖



く夜明けぬ道とい事と抱く怪しき樹に本と  
て了る小物も無し只道徳神の飛と造るるも其飛  
走く極て多れと終るるとも男れ飛のこも  
女れ飛の元一前と板と書くる強馬もそは破  
たつ道と此を見く抱るはは及徳の云ける也けり  
あふと強よ奇異小も其強馬れその力の破れを  
系と以て強て本れかく至つ道といふを今板吉く見  
んとあふ其日るる高樹の本もそは板吉く抱あれ  
やく多れ馬とあれる人本ぬ道徳も亦馬と笑て出て  
く仍ぬ睡るなる後と道徳ぬぬとすく終る本老く  
子翁来もて終人と不知道と小向て抱く云く聖人の  
眼白れ駭の足は療治一終るる依て病はのこす誠如  
う此れ恩難報一愛もは樹の下れ道徳此も也此乃

多れ馬と笑も人への夜神小を次ふれ内誠也時  
く長次翁と以て前役と次若く不者奉来か言と以てお  
ちとて以て罵る此の吾実小難堪一此れは今此の下劣の  
神飛と弃て速く上品此功德れ身と得んとあふ其も聖人  
此力不可極る一と道公言と云く宣ふ妙也と云へども  
此れは力も不及と道徳亦云く聖人の樹下と今二日而て  
法花經河浦一終るんとすくは法花の力も依て忽く  
若れ身と弃て樂れふとせむと云て撞消つ極く失ひる  
道徳の云小地とく之日と板其のふとあふんと云くは法  
花經河浦一終る日小并翁来れ只道と云れて云く是れ聖  
人の慈悲は依て今此れはの身と弃て去き身と得んとは  
以て沿浦陀落ふと生て親善れ眷属と成て并れ終る界らむ  
此も極く法花をすすむる也聖人若く其の虚実と知む

し思ひ給ふ事本枝と云ふ小き事本枝を造て起す本  
 像と云ふ事本枝と云ふ小き事本枝を造て起す本  
 極く失ぬ其法道と道徳の事本枝を造て起す本  
 祖師の像状を造て起す本枝を造て起す本  
 其時風不立波不翻して本枝を造て起す本  
 道と云ふ事本枝の不見成る事本枝を造て起す本  
 又其の御事本枝の人本枝を造て起す本  
 并れ形と云ふ事本枝の不見成る事本枝を造て起す本  
 て本枝を造て起す本枝を造て起す本  
 忍く事本枝の不見成る事本枝を造て起す本  
 孝ひけりといふ事本枝の不見成る事本枝を造て起す本

招世寺 本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗  
 代名年某の四回本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗  
 一宮権現社 本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗  
 代名年某の四回本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗

祇園御靈宮 西本庄村小のりや名中十の村の表  
 本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗

當社々系於此御靈宮より知法せりといひ傳へ  
 下向せし体本と云ふ事本枝を造て起す本  
 始とて文安永正永禄等れ再興此株札等河内と存  
 たり

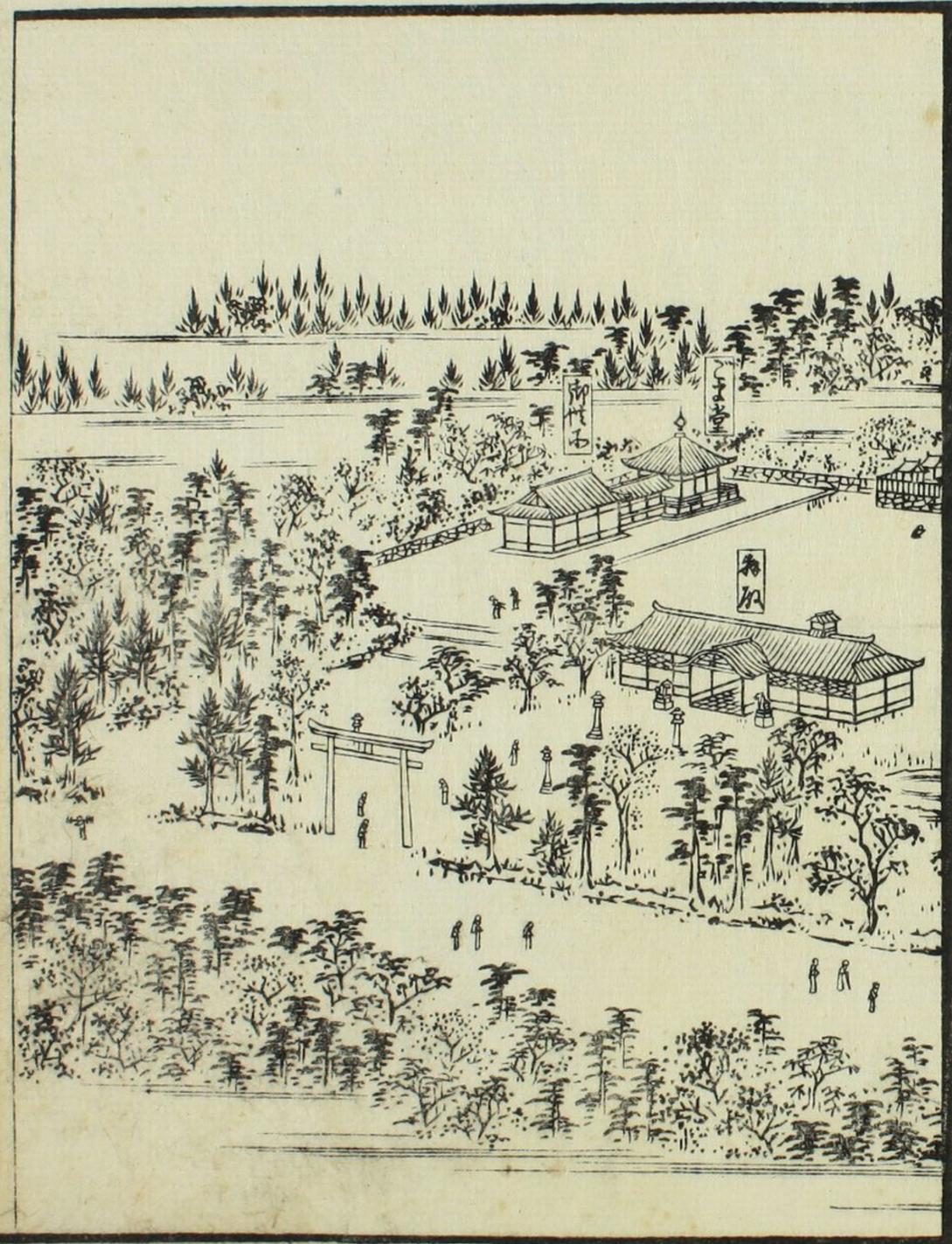
領主愛洲兵部大輔源祐俊 西公友 阿闍梨善祐  
 推薦郡後祐

造栄 南部御庄祇園御靈宮二神社 明德二年 上月廿日  
太郎丸 貞宗  
 目藤原 宗貞

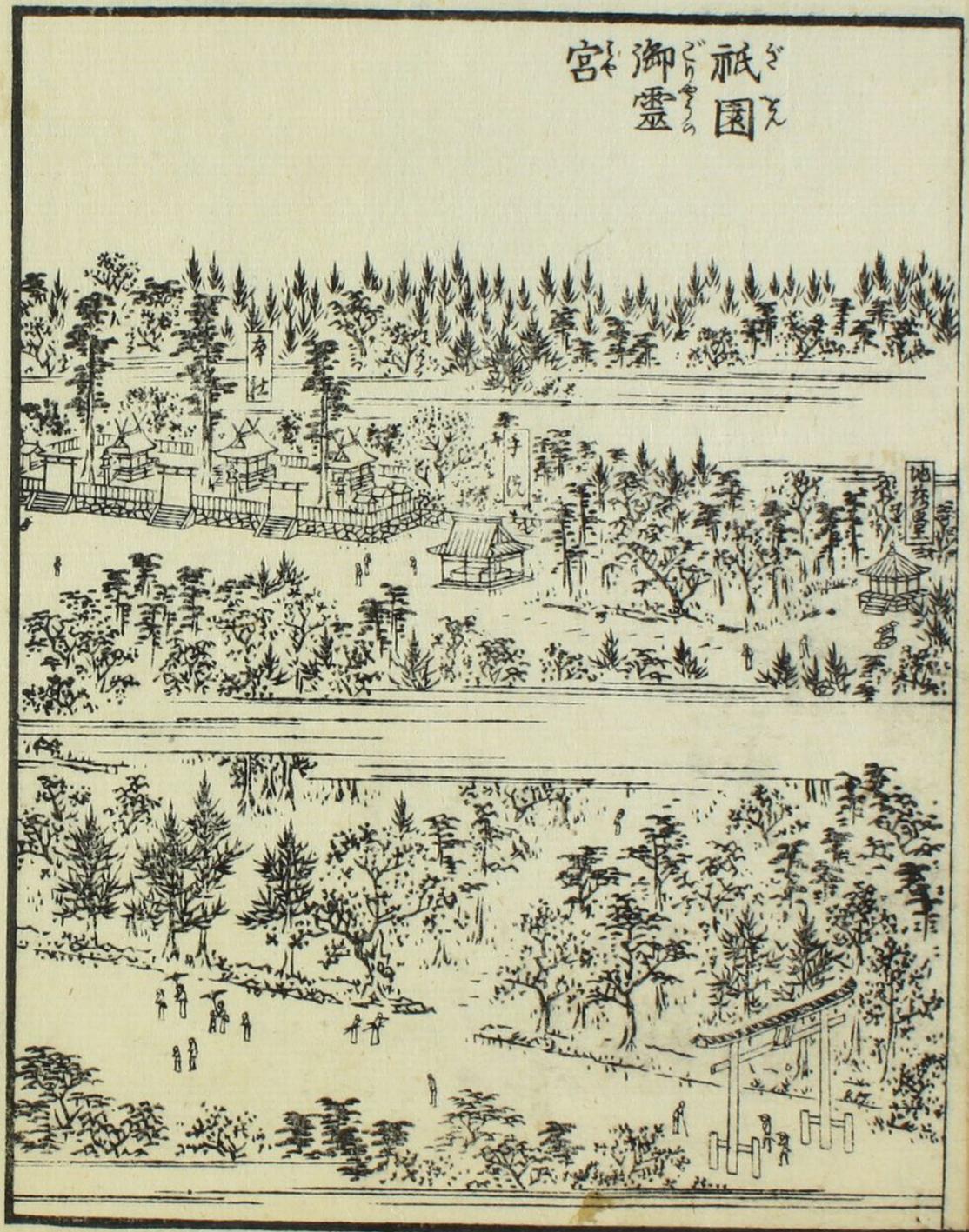
勸進僧東獨門葉長貞上座 貞永 三郎 六夫  
栗田 覆 大二正近

昭邊氏城海 西本庄村小のりや名中十の村の表  
 本村より寺に宗西の法書ありと云ふ以御才及宗





宮御祇  
靈園



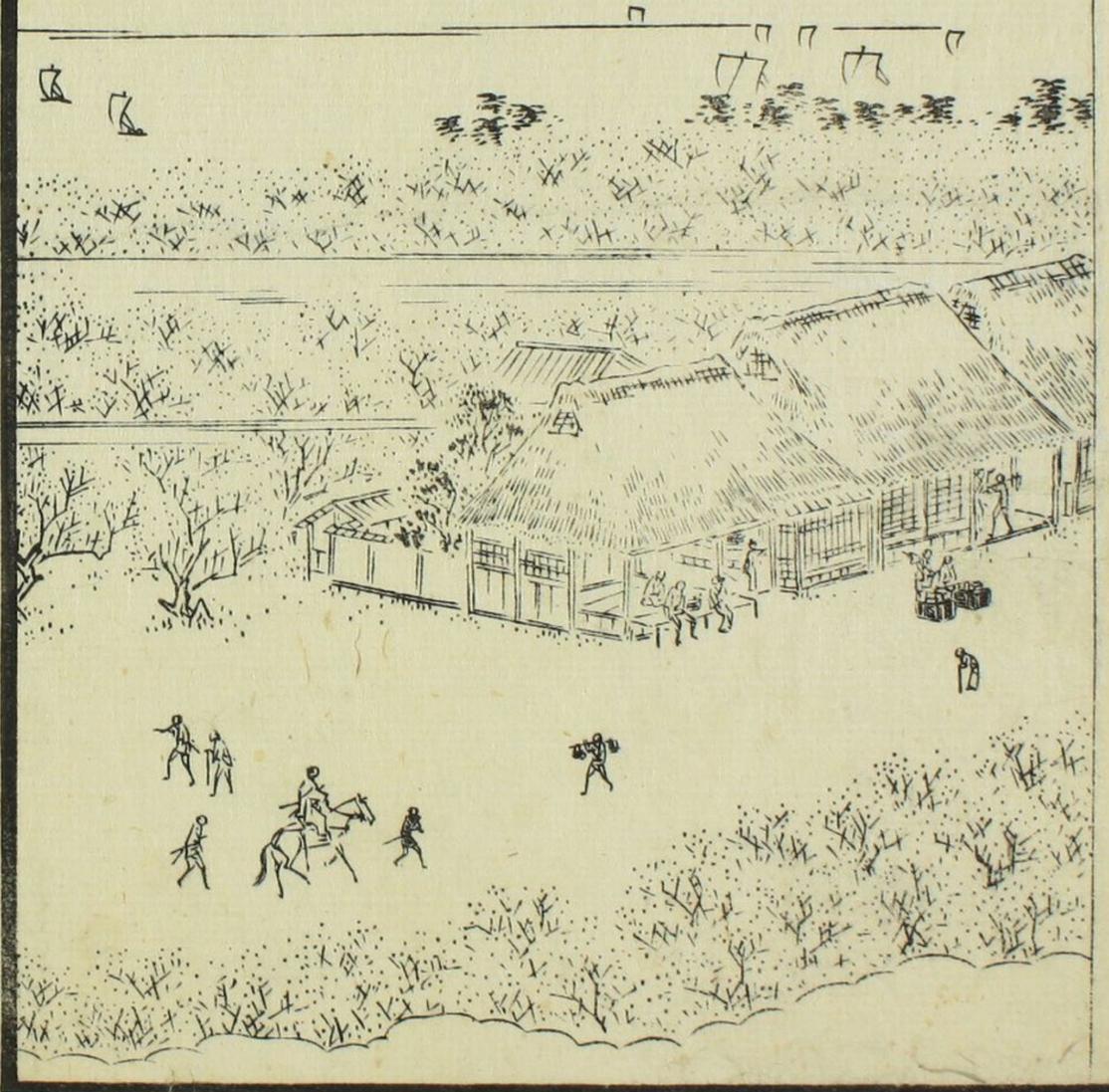
紀四編六五十一



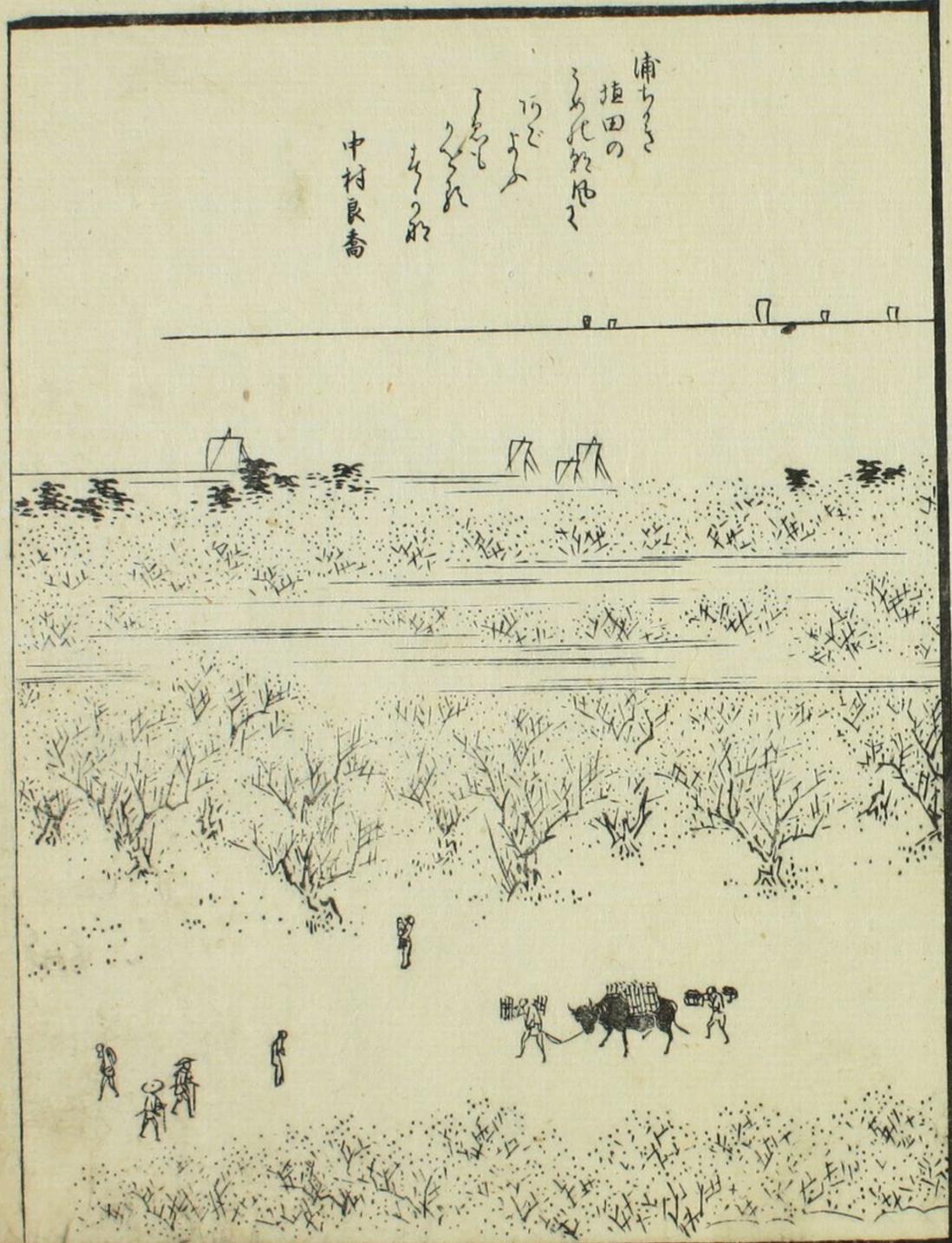


埴田の梅林

いびき  
よれぬ  
の  
あ  
さ  
の  
う  
さ  
西田三子磨



浦  
埴田の  
う  
い  
よ  
さ  
中村良喬



鹿島

来慶歳寒孤心存霏々瑤屑滅衣落已醉仙漿萬斛樽  
芳縁不盡互披襟甫信人間白衣尊便顔百年酒醒日  
俱朝王皇上崑崙為斟一杯竊相祝枝間青鳥矢勿讓  
埴田村の坤海上八町より寺裏黒くして巖上は松樹蒼蒼として  
の葉をりぬけの社らりて人あらず一毎に八月の頃泊るともれまゝに  
ゆれぬの安んず

萬葉集

大宝元年辛丑冬十月大上天皇幸紀伊國時哥十三首中

三名部乃浦塩莫満鹿島在釣為海人乎見變来六

此哥れを依按せりて程ちの干物小く有於より使中  
往來せしる今も羽根崎よりとて道し

拾玉集

瀬い事人か浦と浪のよるこそみづりされ 慈圓

産物海馬

此四の浦小多一妊婦はと愛み振  
アケテ産く膝めば妻を以てし

鹿島神社

此れ中より紀伊と名津小麻呂  
といはく武甕槌命なりといふ

重賢記云

宝永四年十月四日午れ時さぐり波涛ららびて山も崩れ  
地とさけ家居もくろくぐらうとあまがく震動して人み  
ふ軒とけーららてささささけるく忽ち波よせきつて山

内村由利川の  
石小巻 此家所志とくをるうれうせり老若男女はわ

りさぬ然足くうらね忍一海面よるう浪こそたち来りて  
是遊上適よと多く小をぬささけびてとるもれもくうら  
次山是小とてこれわりけれはあもあて人みあてとて  
成室をく紙も折捨て折れ山へせまらふされいかりて若  
れ道小草れ枕之板田表をかまらゆねあさるやうと  
いも人も交るりされど何よりは方へを浪も来り次氏  
あもらやちのりさるるさるるらららららららららららら  
あれ彼山小らさるるか人れ流をけるわささささささ  
わらう海面紙足後し得るさるる小麻呂れ沖よるは彼御  
山をふつとつちもらげたらんさるるれ波を来くる中  
く白くあゆして妙はれ光るける物れ足くけはばらや  
いと固をさるる次とえうう足志さるるさるるさるる

南部鹿島神社

いづれはあり

うしぬく磯

しづみの

あつち

そら

なつ

り

然代繁里



紀四編六五上

鹿島社

風

ち

八

水

崎



小其波沖みして大小二つ小より大なるを来れり  
 仍小きれば浦へ寄来り彼より小なるを先にもれ  
 大なる波は中よりくるを待つは若くは沖  
 へよりとありしよふも其波をたれきて麻嶋乃  
 沖より花くへりぬいぬいもかきしりれりける事  
 ぬやとこぬやうくくくくくくくくくくくくくく  
 小して物録ふ小なりぬべし板も波は山内村乃  
 に志くこと里めは波も来らざりくくくくくくく  
 嘉永四年四月廿五日重賢辛丑麻嶋  
社ノ秀也

紀伊名所圖會後編卷之六終

紀四編ノ年七

嘉永四年辛亥四月發兌



柿園加納諸平 全撰  
 霍野神野易興  
 琴泉小野廣隆 畫圖

紀伊名所圖會後編 近刻

牟婁郡之部

發行書林

江戸須原屋茂兵衛

大坂河内屋喜兵衛

同河内屋太助

紀伊書肆

帶屋伊兵衛梓

紀四編六末

トヌコメ

